

創立五十年

創立五十周年記念誌

兵庫県立加古川東高等学校

清流五十年

創立五十周年記念誌

兵庫県立加古川東高等学校

目 次

創立五十周年を祝う……………兵庫県知事	坂井時忠……………1
創立50周年にあたって……………学校長	岩崎宗次郎……………2
発刊のことば……………前学校長	嶋田幸雄……………3
所感……………清流会長	穴田等……………4
お祝いのことば……………前育友会長	大村武雄……………5
追憶	
思いで……………	山本教憲……………6
在職時の思い出……………	柴垣武夫……………6
筐底に在職時代を探る……………	清水敬治……………7
思い出……………	亀岡寛治……………8
記憶を辿って……………	本田愛良……………8
清新潑刺とした自然児……………	水池誠一……………9
県立加古川中学校・加古川東高校小史	
略年表……………	10
座談会・戦争前後……………	20
クラブの歩み……………	27
通信教育の沿革……………	30
(付) 通信教育部の統廃合とその実状……………	宮川徳一……………33
校訓・校歌・校旗制定のころ	
校訓について……………	高松一禎……………35
校歌の制定……………	高松一禎……………35
校旗を語る……………	龍見譲……………35
校地・校舎の変遷……………	重松景正……………37
(付) 会館用地について思う……………	高橋一郎……………37
校則の変遷……………	40
歴代生徒会役員一覧……………	43
育友会略史……………	44
大学入試合格者数推移一覧表……………	45
身体状況推移一覧表……………	46
就職希望者数推移一覧表……………	46
あとがき……………	47
	表紙題字……………高松一禎



校歌

一、光れる湖と霞の島よ

白く平野と里の松よ

いづれにせよみは播磨
國の誇りゆてもまわが校舎

二、心をあはせてわが師のまこと

集ひて日毎に学ばば何ぞ

全そんぐとてわが出で
祖國と君とに奉ぐえんそれぞ

三、浮きかへせし上れ慣を退け

一つの誠と確かに守り

加古の大川行く水絶えず

朝夕つとめむいざりく來よ

一三〇上八 初作
(加古川中学校初期の校歌)



加古川中学校校歌

一、流れてきたきぬ加古の川

常盤は流れる様廣瀬
日本武尊の白皇子生れ

漢一跡をとくもる印南聖門
地を吾が校の立つところ

つとむ 鵬雛の百人

二、自然に育ちて身をいそげ

久志の生(命)創造らんと

自決の大猪(うま)や

眞実の徒ゆきなく

道むかともた丈夫の

業方くはらけよの理想

三、建國ころに三千年

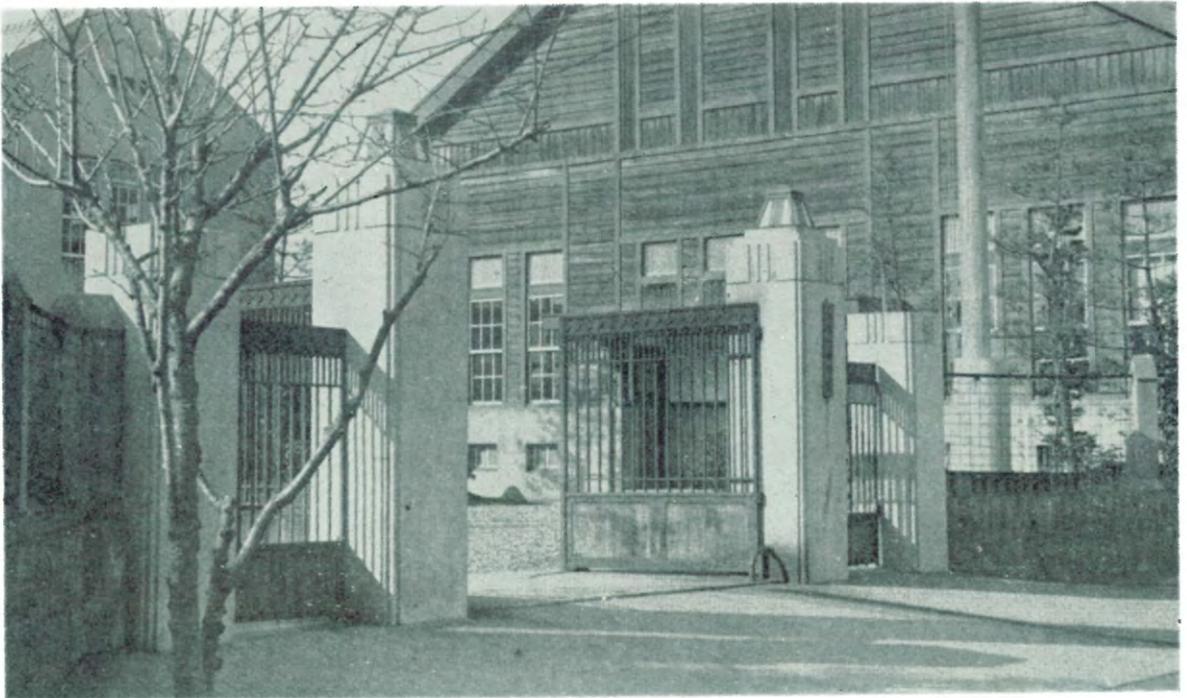
宇内にもほふ列強を

皇道宣布の大理想

正義の翼をたたく

大和雄叫び真らんに

吾は果せんやう使命





校歌

須藤正純作曲
富田碎花作词

いせ見よ

行く手輝く日の柱

久遠の光に瞳をひく

自治創造の力一つに

希望の鐘あらかに

うち鳴らせ

光はつねに東より

あゝ我等加古川東馬場

二いせ聞け

加古の水行く瀬の音

絶えざる流れに息を潜め

親しみあする心一つに

希望の鐘あらかに

うち鳴らせ

光はつねに東より

あゝ我等加古川東馬場



歴代 学校長

()内は在任期間



初代 瓜生兵吉
(大13~15)



二代 藤井慶乗
(大15~昭4)



三代 岩村寅之助
(昭4~9)



四代 中井修一
(昭9~15)



五代 松本従之
(昭15~20)



六代 青山 勇
(昭20~22)



七代(高一)亀岡寛治
(昭22~26)



八代(高二)清水敬治
(昭26~31)



九代(高三)川本猪三郎
(昭31~33)



十代(高四)井内喜久次
(昭33~38)



十一代(高五)柴垣武夫
(昭38~41)



十二代(高六)西村 勇
(昭41~43)



十三代(高七)山本教憲
(昭43~46)

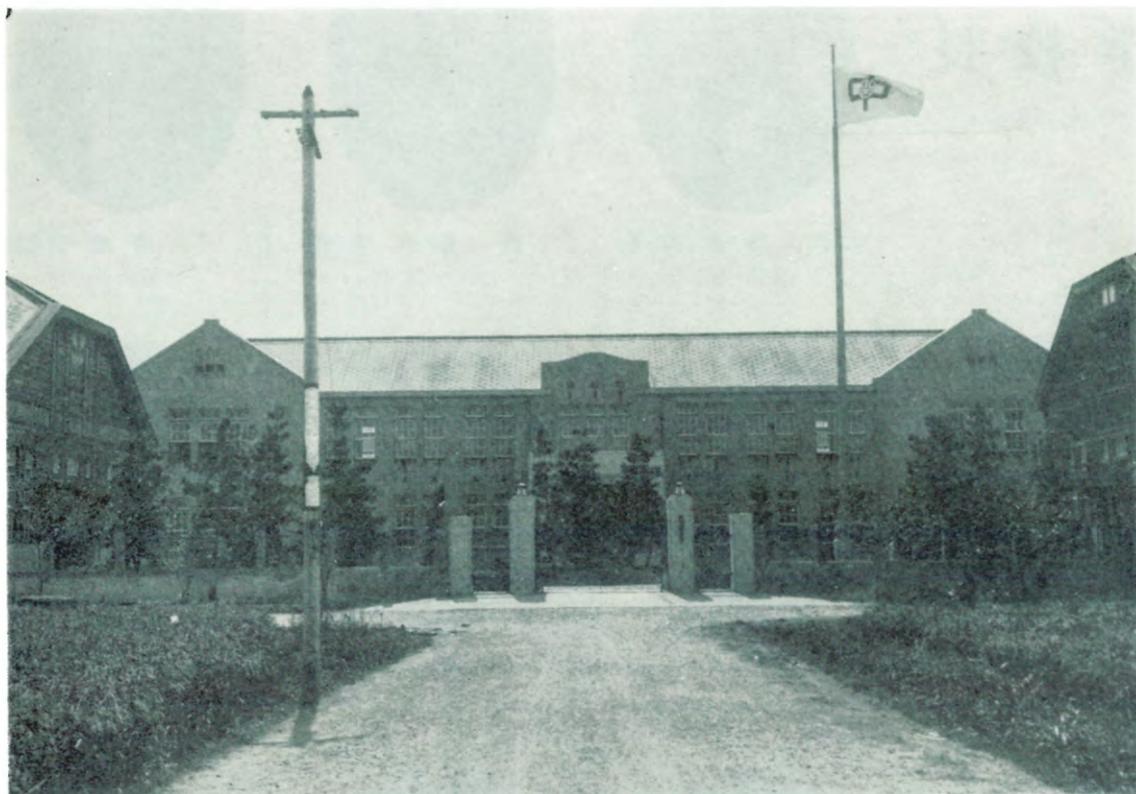


十四代(高八)嶋田幸雄
(昭46~49)



十五代(高九)岩崎宗次郎
(昭49~現在)

校地・校舎の変遷



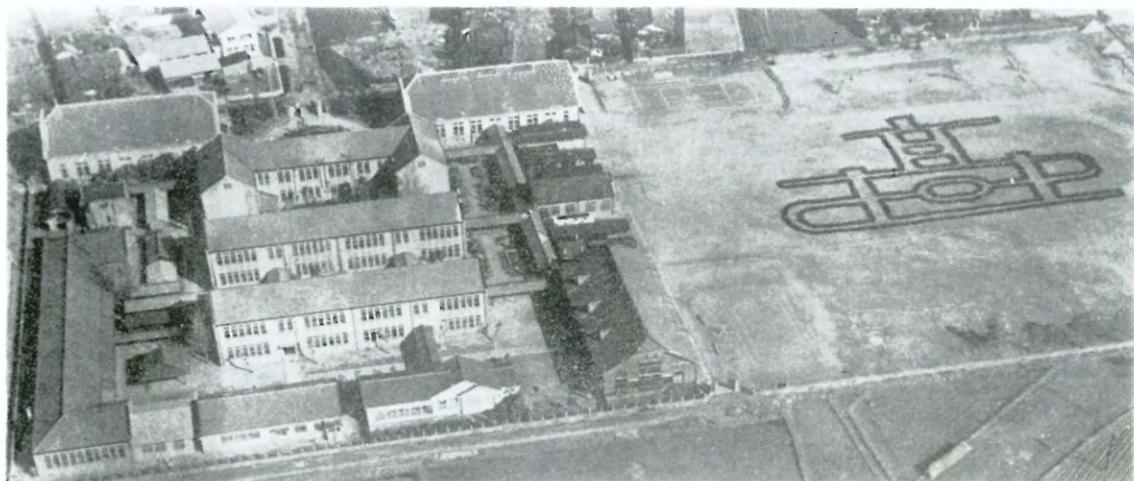
開校当時の正門



昭和9年頃の中庭



開校当時の園芸用温室
(今上天皇即位記念事業)



昭和30年頃の全景



昭和35年頃撮影

昭和43年春頃の航空写真

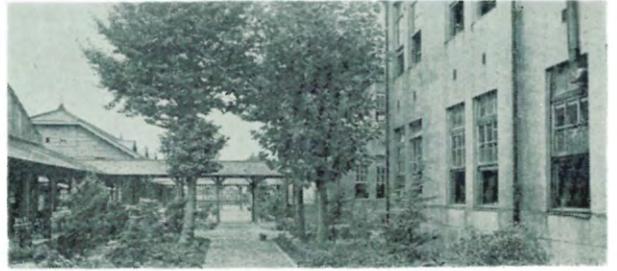




渡廊下(昭和125年)



作法室(昭和28年)



静かなたたずまい(昭和30年)



昭和35年頃の前庭



昭和33年頃の校舎の一部



完成した第一期工事(昭和37年)



第5期校舎建設工事現場

開校・10周年記念行事



開校記念式典



開校記念運動会

創立10周年記念植樹



創立10周年記念式典

職員の今昔



職員室風景(昭和9年)



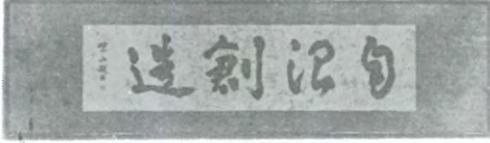
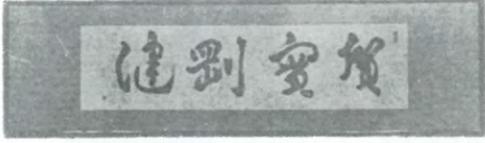
ストーブを開んで(昭和25年)



職員会議(昭和48年・於会議室)

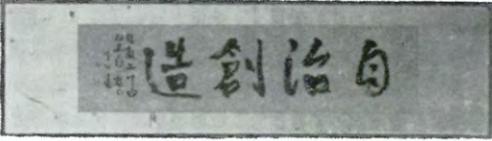
学生生活

旧制
中学校

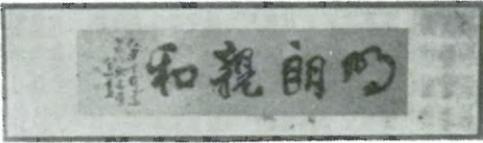


<校訓>

現



在



旧制中学時代の制帽とカバン

いつまでも変わらない桜並木





中学校当時

<教科書>

現在

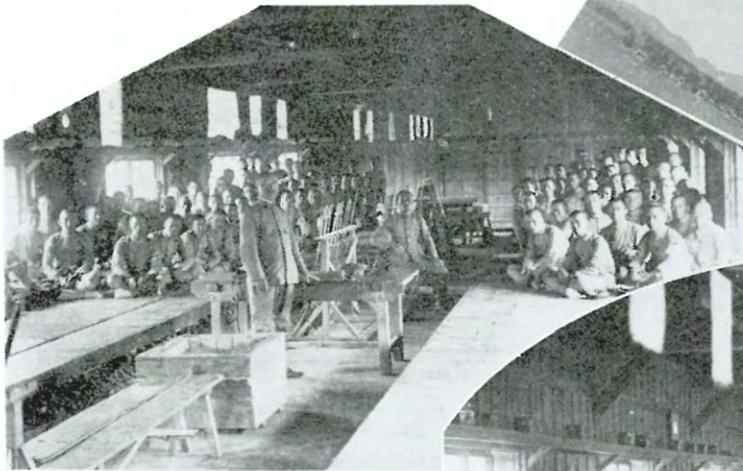




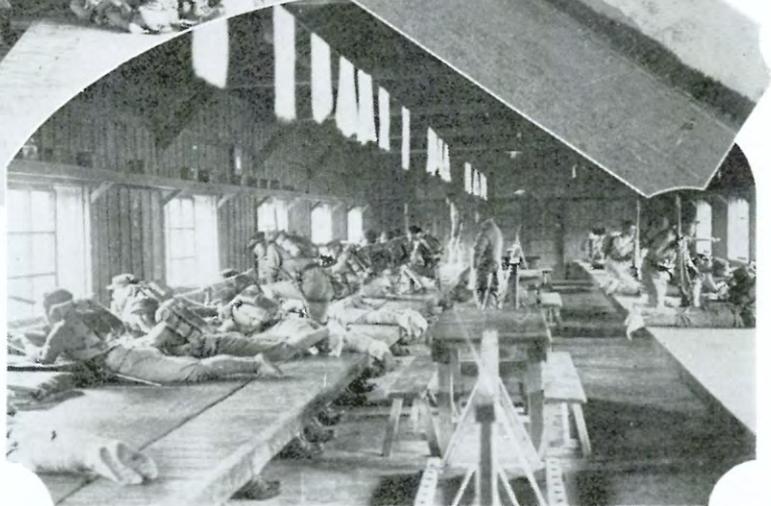
開校祝賀提灯行列



農業実習(昭和8年)



青野ヶ原宿泊教練
(昭和8年)





卒業間近最後の勤労奉仕(昭和14年)



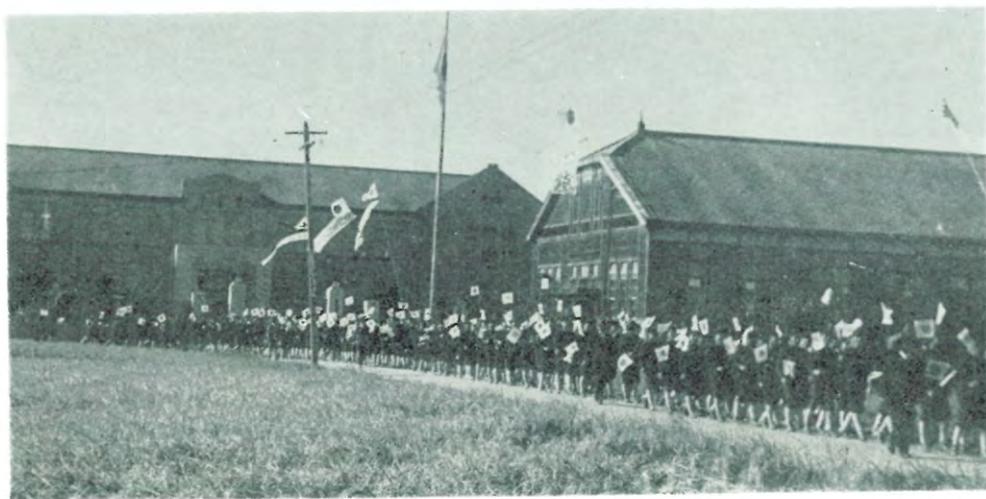
創立10周年記念文化祭の一部(昭和9年)



卒業生のよせ書き(昭和14年)



事変風景千人力(昭和14年)



二六〇〇年祭旗行列
(昭和15年)



洪水時の登校風景(昭和27年)



東京オリンピック聖火リレー(昭和39年)

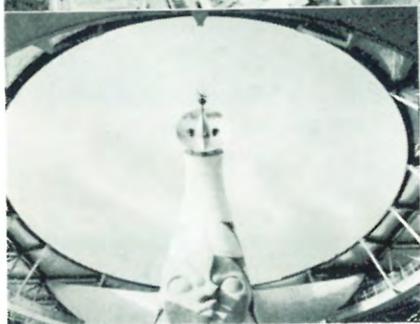
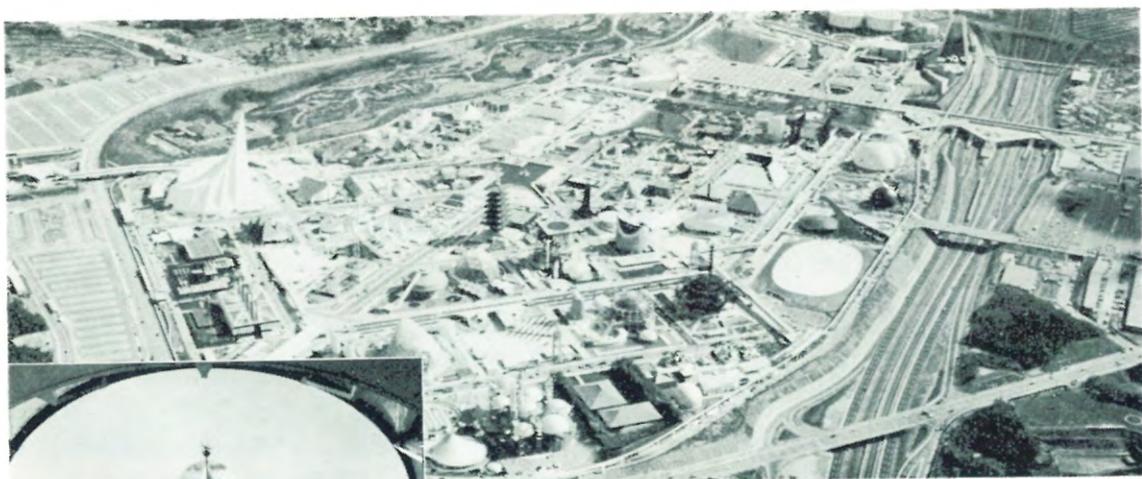
新築なった体育館(昭和42年)



待望のプール開き(昭和45年)



防災訓練(昭和43年)



日本万国博覧会会場全景



合宿研修(国立淡路青年の家・昭和47年)



神鍋山でのキャンプ(昭和48年)

<クラブ活動>

作業部(昭和5年)

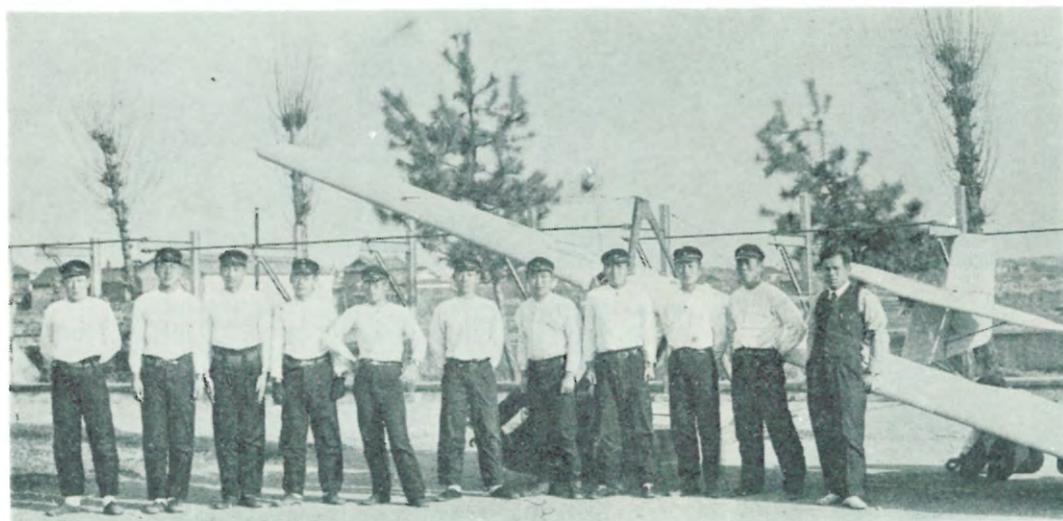
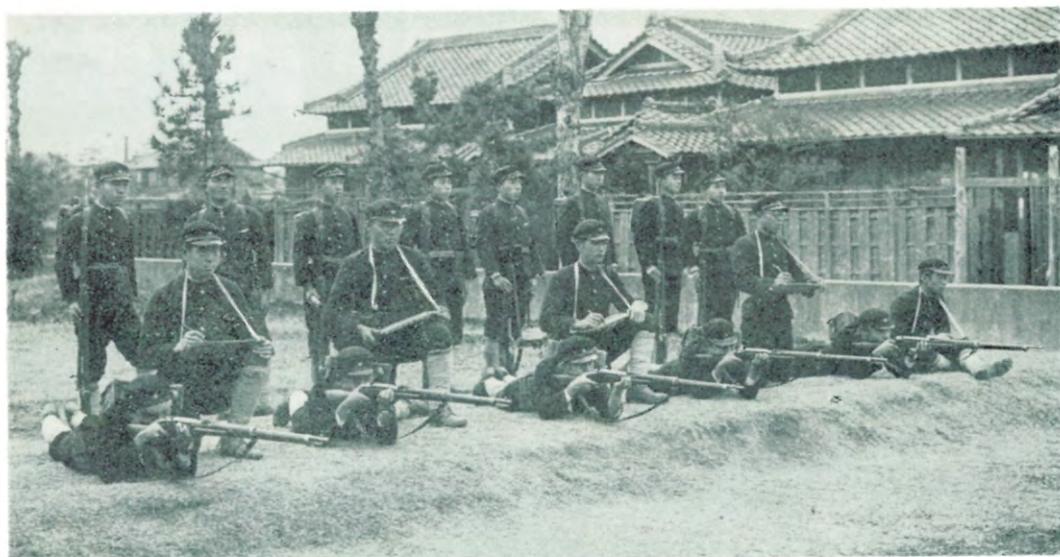


遠足部(昭和3年)



▶ 園芸部(昭和5年)
▼ 鼓隊(昭和11年)
◀ 水泳部(昭和8年)





上・射撃部(昭和13年)
中・滑空部(昭和15年)
下・ラッパ部(昭和15年)



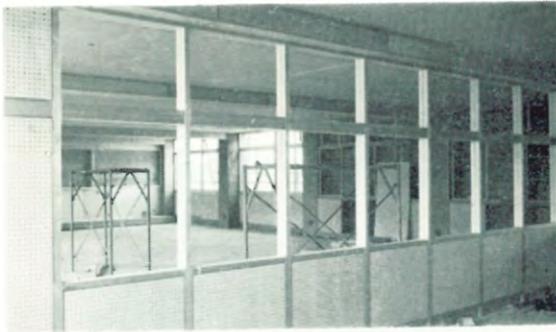
左上・結成当時のバドミントン部(昭和26年)
 中・ラグビー部(昭和30年)
 下・ソフトボール部(昭和26年)全国大会出場
 右上・相撲部(昭和40年)
 下・最強時の野球部記事(昭和34年)



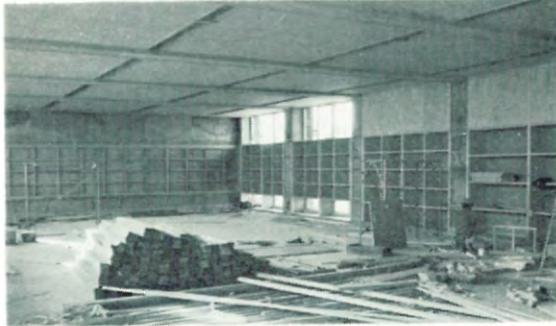
建設中の新館



完工間近の全景



一階（生徒集会室）
着々進む内装工事（49年4月20日）

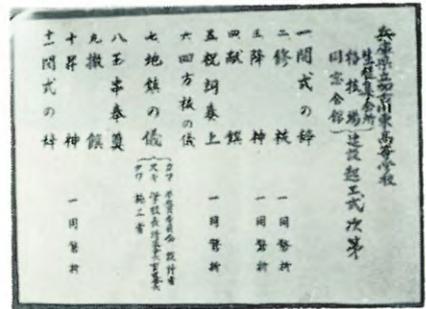


二階（格技場）



三階（同窓会館）

地鎮祭



創立五十周年を祝う

兵庫県知事

坂井 時忠



創立五十周年おめでとうございます。

加古川中学校が生まれた大正末期から昭和の今日まで、日本はかつてない激動と変遷の道を歩んでまいりました。

学制改革による加古川東高校への衣替えや男女共学の実施など学園の姿もすっかり変わりましたが、「自治創造」、「明朗親和」の良い伝統は絶えることなく受けつがれ、幾多の有為な人材を産み出してこられました。その輝かしい歴史に心から敬意を表します。

この記念誌を手し、卒業生のみならず方々ありし日の青春の面影をページの上に重ね、今昔の感ひとしおであります。

この世の生あるもの形あるものは、すべて移ろい滅びていきます。学校のたたずまいも、先生、同窓生の顔触れも変わっていく中であって、いつまでも変わらないもの、残っていくもの、それは「こころ」であろうと思います。

親と子、兄弟、友人の間に通い合う「こころ」、ひとつの学び舎に学んだ者だけに通じる母校愛、これも「こころ」でありましょう。

時代の流れや教育によって、それぞれ考え方や表現に違いはあっても、根幹をなしているものには変わりはありません。

私が「こころ豊かな人づくり」を県政の基調としている所以もここにあります。

加古川東高校五十年の歴史は、一万二千人の同窓生の「こころ」に支えられ、さらに新しいページを加えていくであります。

この記念誌が、単に懐古の書としてとどまることなく、次代へのよき指針として、これからの十年、二十年、さらに百年へと受けつがれていくことを心から期待してやみません。

創立50周年にあたって

学校長 岩崎宗次郎



本校は、大正13年4月、兵庫県立加古川中学校として開校、爾来半世紀の星霜を閲し、ことし創立50周年を迎えることになったが、まことにめでたいことであります。

思えば、記紀万葉の古えより、しるき歴史の跡をとどめてきた加印の地に、「質実剛健・自治創造」を校訓として、歴代校長はじめ気鋭の諸先生がたの、新興の気風に充ち、熱氣溢れる好指導と、それに応えた生徒たちの、みずから学ぶことに目覚めた懸命の努力とが、兵庫県下に加古中ありという名声をかちうるには、そう長い年月は要しなかったと聞いています。

昭和23年4月、学制改革により、現校名を称し、男女共学の新制高等学校として新たな誕生を迎えました。従って、校訓も男女共学にふさわしく、「自治創造・明朗親和」と改められはしたが、「自治創造」の字句がのこされたことに象徴されるように、学風そのものは名門加古川中

学校の伝統をうけついで今日に至り、幾多の俊秀を世に送りつつけていることは、世間の齊しく認めることであり、本校の誇りとすところでもあります。

卒業生も総数1万2千名を越えましたが、そのうち女性も4千名に垂んとし、加古川東高等学校となってこのかた、男女生徒数の比率がほぼ6対4の線にあって、男女共学として理想的な割合を保っていることは、高等学校発足当時、県立加古川高女と折半交流を敢行したことに、その源流が求められるでしょうし、その折の精神が今日にうけつがれてきているものと思われ、教育上の見地からも、この上もなくよろこばしいことと云うべきでしょう。

眼を転じて、校地校舎建設のあとをふりかえてみますと、本校は、現在地に創設わずか半歳にして火災のため新校舎を烏有に帰せしめ、一時はこのまま廃校かとまで噂される悲運に見舞われました。しかし、教職員生徒あげての勉学復興の熱意と、地元各位の絶大な支援によって、旧に倍するりっぱな校舎が建築され、昭和3年、5学年がはじめて揃った春、この新校舎で開校式がとり行われたと伝えられています。

その当時、県下においても有数の施設を誇っていた本校も、年とともにようやく老朽化の途を辿りつつあるとき、一方において、高等学校生徒の激増に処する途もまた講じられねばならぬことになり、本校全面改築の議が真剣にとりあげられてきたのでした。

昭和38年3月、改築第1期工事として4階建普通教室8教室が完成したのをはじめとして、昭和46年3月、第5期工事の完成をもっていちおう校舎関係の工事は完了しましたが、50周年記念事業のひとつとして建設される同窓会館を含めて、格技場・生徒集会所などに使用される3階建別棟が、正門内東側にことし5月末竣工、本校の施設に花を添えることになりました。

なお、昨年来の学級増にともない、一部教室の手直しと増築が現在計画されていますが、これも今年度内には完了の目途をもっているため、本校の施設は完備目前と言ってもよいと思います。これもひとえに、50周年を目安として、施設の完成に力を尽くされた教職員・同窓会員ならびに育友会のお骨折りのたまものと厚く感謝し、このすぐれた施設を生かして、今後いっそう子女の教育に邁進する覚悟を固めた次第でございます。

発刊のことば

前学校長 嶋田幸雄



本校の前身、兵庫県立加古川中学校は大正13年4月に開校され、本年で満50年になる。当時は1学年3クラス、150名で5年制であったから全校定員は750名であったが、これは当時の旧制中学校の標準的な規模であった。昭和23年4月、学制改革によって県立加古川東高等学校と改称され、間もなく旧制県立加古川高等女学校と職員生徒をそれぞれ折半交流して男女共学となり、またその翌年4月から小学区制も敷かれたがこれらのことは当時としては画期的な大改革であった。創立当時の木造2階建校舎も長年月を経て漸く老朽化したので、昭和37年度より校舎の全面改築が始まった。この改築工事は県下高校の新設などに巨額の県費を食われて遅々として進まず、本年で満12年になるが、創立50周年記念式典までには全面改築の最終の工事である生徒集会所、格技場、同窓会館も竣工する予定である。

昭和48年始めより、同窓会、育友会、学校の三者が相寄り、50周年記念事業並びに記念行事について協議を重ね、かねて計画のあった同窓会館の建設を始め、特に50周年記念誌を編さんすることが決議された。以来、学校が中心となり、同窓会、育友会のご援助のもとに記念誌編集委員会が組織され、先づ資料を広く校内外から収集することとなり、同窓会員各位からも貴重な資料を提供していただいた。しかし何分にも半世紀の長年月にわたり、しかもその間には戦争、敗戦、また校舎の移転などの混乱のため、資料の欠落した箇所も多く、協議を重ねること数十回苦心惨たんの末、漸く本年1月末草稿を完結するに至った。しかし、時恰かも物不足、紙不足の大嵐に遭遇してその発刊さえ危ぶまれたのであるが、資料など、多くの部分を後日に割愛し、最初の計画とは大きく規模を縮小してこの小冊子の発刊となったのである。

本校は創立以来50年、その間に幾多の変遷はあっても、着々として向上発展の途をたどり、本校今日の繁栄を見るに至った。このことは地域社会のご支援もさることながら、さらに本校で学び、本校で教へんをとってきた先輩生徒、教職員の不断の努力の成果である。本校創立50周年に当って、このことに深く思いを至すとともに、本校今後の一段の飛躍と発展を心に深く期するものである。即ち、50年間培われた本校の良き伝統は、これをあくまで堅持するとともに、徒らに伝統に安坐することなく、時代の進運に即応した新しい校風の樹立と刷新のため、全教職員全生徒が一致協力して精進することを誓うものである。

所 感

清流会長 穴 田 等



粟津の宮より東へ高砂線までの一帯は、人家は殆んどなく広々とした水田が続き、当時国道2号線の建設工事が始まったばかりで、土盛りされた道幅を見て何と広い道だなあと驚いたものだった。その年、すなわち大正13年に粟津の田圃の中にポツンと建てられたのが母校加古中である。

木造二階建ての、当時としては立派な本館であり、講堂校舎などもなかなかモダンなものだったと思うが、その建物もその年の11月30日の災禍により焼失して、我々の記憶から遠のいてしまった。今校庭の一隅に残っている元の雨天体操場が創立当時の建物の唯一のものである。現在校舎のある位置に校庭があって、その広さ約4000坪、当時としては広過ぎる感じがした。周囲にはポプラの木が植えられ、休みの時にはその木蔭でよくだべったものだった。

運動場は砂利混りの盛土のため石ころが多く、体操の時にはよく石拾いをさせられたし、火災直後は毎日のように後片づけの人夫代わりをさせられた。

第1回の入学生 150名が黒の小倉服に赤の編上靴という通学姿で加古川の街々に見かけられたのもつい数年前のように感じられるが、星移り年変わってはや50年の歳月が流れた。

大正の時代はのんびりしていたが、昭和になってからの移り変わりは激しく、満洲事変以来の戦時体制、敗戦の混迷、そして昭和23年新制加古川東高校として再出発、学校も時代とともに変貌し、加古川高女と折半交流して、女子を同窓に迎えることになったのも学校制度の変革を示す歴史のひとつである。

木造の校舎は耐用年数を過ぎるといたみが激しくなり、昭和37年、各方面の並々ならぬご尽力により全面改築の第1期工事が始められ、爾来足かけ10年かかって5期にわたる工事が終わり、さらに昨年11月に最後の工事である生徒集会所と格技場と共にこの同窓会館が同時建設されたのである。

新築成った校舎、旧中学以来の卒業生も1万2千、同窓会も年とともに新たになってゆきますが、「自治創造」の精神は脈々と生き続けています。そして清流会員はいつまでも互に手を携え、一燈一隅を照らせばまさに1万2千燈、わたくしたちの魂を育ててくれたこの母校が、次の世代の人たちのためにも強い心の支えとなるであります。

創立50周年に当たり、伝統ある母校の校風を一層振興するために関係者一同が謙虚な努力を積み重ねてゆくことこそ何よりの記念であると信じ、皆さんの心からのご協力を期待してやみません。(中1回生)

お祝いのことば

前育友会長 大村 武雄



空あくまでも青く澄み、加古川の清流を西に、校庭の青葉にささやきかける6月、鉄筋三階建の同窓会館兼生徒集会所ならびに格技場が校庭に新築落成し、その偉容を現わし、ここに本校創立50周年のお祝いの日を迎えたことは、まことに喜ばしいことであります。

昨年の5月はずからずも育友会長として就任してから1年余、本校の歴史に一頁を飾るこのめでたい年に在任する光栄を思うとともに、歴代の学校当局、清流会および育友会の各位が、これまでに本校を築きあげてこられた貴い努力と偉業を偲び、その遺産を受け継ぐ身の責任の重大さを痛感するのであります。

半世紀に亘るその歴史の蔭には、各時代の校長先生を始め諸先生方、同窓会、育友会の方々のたぎり立つ教育への深い愛情による並々ならぬ努力と言ひ知れぬ波乱を秘めておることを思うのであります。また道を求めてどこまでもこの教育の殿堂を守り育てようとした在校生・卒業生たちの強く尊い母校愛の苦心のあったことも偲ばれるのであります。

遠く北播の山々をぬって水豊かに流れくる県下第一の大河加古川の清流が、悠々として海に流れゆき、果てなく続く堤の両側に開ける東播の稔り豊かな大平野、ここ新装なった同窓会館の屋上に立って、この風光を一望にしなが、目を南に向けると海岸沿いに大工場の煙突が林立して近代化学工業の粋を集めた感があり、北には緑に恵まれた日岡の丘が、この地に与望を荷なう本校の姿は、まさに天の地を得たものであります。

敬愛の人間尊重に徹し、学業に励み真理の探究に挺身して悔いることなく平和社会の実現に奉仕の汗を流し、明るく楽しい生活の実現に邁進する建学の精神は、長い伝統の中に育てられて、穩健友愛の校風をつくりあげ、幾多の人材をこの学園から生み出しています。

今、長い歴史の一里塚に立ち、過去をかえりみて心から創立50周年ならびに同窓会館の新築落成を祝うとともに、これを機としてさらに大飛躍をなさんとする本校の輝かしい将来に夢を走らせつつ、ますますの発展を祈念してお祝いのことばといたします。

終りに、この記念すべき行事の一環としての記念誌編集資料の収集も容易でなく、また同窓会館建設にあたり、遠近へ寄付金あおぎのご労苦、その他関係くださった方々が私意をすててのご協力に対しまして深甚の感謝を表します。

追 憶

思 い で

山 本 教 憲

私の加古川東高在任は、昭和42年から45年までの3ケ年であった。当時、すでに50周年の記念行事の話などボツボツでかかっていたが、記念誌の原稿依頼をうけて、まことに感慨無量である。在職中はまさに緊張の連続であった。東西に吹き荒れた学園紛争は本県の場合、育友会費の使途と同和問題のからみ合いが導火線となっていた。近隣校の余波もあって、本校でも模擬試験廃止要求にからむすわり込み等多少のトラブルもあったが大事に至らなかったのは、伝統の重みと生徒・職員の良識であったと今も感謝している。思い出としていつまでも脳裏に残るものは、苦悶し、泣き、もたえぬいたすえ難事を完遂した喜びである。その一つに、私は着任早々、四囲の状況から育友会費を学校運営に使用することの全面的禁止に近い措置をとった。それは後の教育長通達に先立つ一年近い前であり、その影響は学校運営全体に波及するものであった。はたして職員の反対にで合い、四面楚歌、晩酌の味もほろにがい幾夜だった。しかし、その決断が本校を紛争の火中から救い得たと自負しているし、今では職員、父兄ともご理解いたされたと信じている。450万の会費を専決できた往時の校長はまさに「校長貴族」だった。いま一つは、校地買収にからむ思い出である。生徒集会所などの建設用地として東側市道までの校地拡張のことは、本校としては年来の懸案であった。面積700坪強、価格9千万は当時県教委にとっては破格の英断であった。その為に学校財産の一部を処分しなければならなかったがこれまた事情已むを得ないことであった。交渉難波るケ年、その間にお会いしたり、お世話になったいくたの関係者の方々、藤井さん外3人の地主さん、歴代の育友会長さん、会計の高橋さん、県教委の高城次長、同塩見総務課長さん、わけてもその間、どんなつらいことがあっても終始笑顔をくずさず単車で交渉に駆けずりまわってくれた重松事務長など、校地買収にまつわる忘れ得ない人々ばかりである。なぜ校長が土地買収に狂奔しなければならぬのかとぐちゃったり、交渉のさ中、いじいじして腹

をたてたこともあったが私にとっては「執念の土地」として忘れ得ない思い出である。その土地に立派な施設ができ記念行事を飾る。歴史とはそんなものであろう。加古川東高校の歴史のなかにささやかな思い出よ残れかしと念じつつ、請われるまゝに記した次第である。(13代<高校7代>校長)

在職時の思い出

柴 垣 武 夫

私は昭和38年4月加古川東高校長に着任した。終戦後社会状況は復興の途を辿っていて学校営繕も都市に於ては概ね完了していたが、郡部に於ては緒についたばかりであった。県立高校の多くは大正末期の木造建築で戦時体制下、木材供出等もあり、風雪に曝らされたまま全く手入れが出来ていなかった。それ等の学校が一斉に修築の陳情を行うのである。耐用年度を過ぎた老朽危険校舎を改築するための予算を獲得することが校長の最大の苦労であった。「あちらこちらに頭を下げりや、土木校長と笑われる。今日も馴れない建築工事、これが校長のつとめでしょようか」と「芸者ワルツ」の替唄「校長エレジィ」の一節である。私は高砂でも豊岡でも土木校長であった。県下の名門東高ではこの苦労もなく、高校本然の教育に取り組みめると思った。既に校舎全改築の第一期工事は完了し、逐年自動的に完成に進むと聞かされた。着任後、校舎を巡視して驚いた。本館は別として特別教室棟、体育館の老朽は目に余るものがあった。関電に絶縁検査を頼んだ結果は案の定、不良であったが修理するにも配線図がない。この作製に苦労した。白蟻の発生が発見されその駆除に2ケ月かかった。10月7日生物教室の改修が完成して立派になった。10月11日県教委奥田管理部長に強請して学校視察をうけ、第二期工事着工に就いて陳情した処、限りある予算で東高だけ優先は出来ない。順番を待てとの話。4階建8教室が煙突の様に立ったまゝ次の着工が定らぬことは我慢出来ない。それで部長の初巡視を願い、校舎の老朽度から新築の急を現認してもらおう為である。当日、吉田市助役、清流会から藤本会長、高松、松野、亀田副会長、育友会から松本、金川氏、小南県議の来校を得た。其後再々上県

して陳情していた処、11月12日西脇工高竣工式の時、部長から東高の着工は本年中に行う旨を聞き喜んだが、当夜10時40分西高が出火炎上した為、着工1年延期となった。11月15日田中県議、稲岡市長、中崎育友会長、清流会高松、松野副会長のお伴をして対県陳情を行った。昭和39年9月2日体育館修理完成。9月25日台風20号が襲来し秒速30米、騒然たる創立40周年祝賀式を挙行した。参会者150名。昭和40年9月10日台風23号加古川を直撃、加古川大橋上で瞬間風速50米、2軒南の民家の門が正門前まで飛来し、校舎の被害甚大、9月14日は大雨で正門前道路の水深60釐、11時30分授業を打ち切り生徒を帰宅させた後、私は午後4時20分、国鉄不通のためバスで帰路につく。2時間50分を要して漸く姫路に辿り着いた。昭和41年1月25日第二期工事完工式を新館前で行った。1月27日東高職員住宅三戸の起工式を行った。以上が3年間の憶出の一部である。東高を去って既に7年余、当時を憶って感が深い。私が苦勞した校舎は取り払われて運動場となっている現在、その姿は私の網膜に鮮烈に残っているのみである。

私の在職時、教職員は全員結束して、持つ力を完全に發揮して育英の道に精進し、生徒の信頼に応えた。清流会と育友会の各位は東高隆盛のための協力を惜しまなかった。生徒は自重自戒して、世の悪風に染むことなく、純真な学徒の道を歩んだ。在職三年間、私は生徒処分を一度も行わずに済んだ。短い在職中、突然の海外出張等もあり、関係各位に御迷惑をかけた点をお詫びすると共に、最後の任地を東高に得て、創立五十年の校歴に關与することが出来たことを生涯の光栄と存じる次第です。最後に東高校の弥栄を心から祈念致します。(11代<高校5代>校長)

筐底に在職時代を探る

清水敬治

私の在職は昭和26年から31年で、ふた昔も前のこと記憶は古いも手伝って、喪失傾向です。

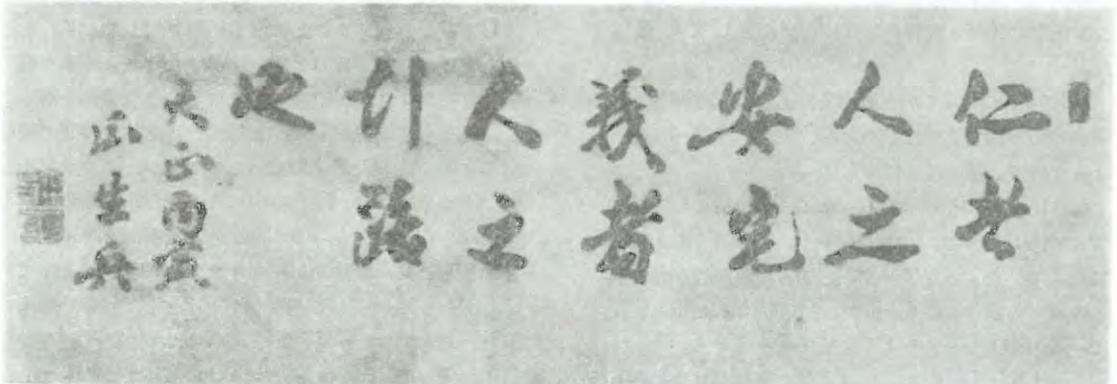
創立30周年は挙式をしたり記念誌を発刊したりしました。記念誌の巻頭には、県教委や育友会、同窓会の心尽しで、本館と両翼の講堂・体育館が補強塗装されたことを感謝し、これを期として、職員生徒一同が、自新再新することを誓っております。

それから更に10年、創立40周年当時は、私は芦屋の教育長職にあつて、過ぎし10年の懐かしさを綴って片々の文を寄せました。

幾川を越えて、学ぶに如かず、女子に作法を、美しい玉砂利、優勝旗明石川を渡る、校舎なつかし……月日のたつのは早い……がその見出しでありました。

ここに創立50年を前にして、私はるたび歎びに遭遇することになりました。唯、いつもと違って我身の息災を併せ喜ぶ微妙さが、現われたことです。古びた「清流新聞」と雑誌「めるへん」を取り出してみます。

加古川東高の創立50周年を祝し、愈々ご発展をお祈りいたします。(8代<高校2代>校長)



思 い 出

亀 岡 寛 治

私が加古川に赴任したのは今から26年前の昭和22年9月であった。当時は住宅がなく学校銃器庫を住宅に改造して、私達一家5人が階下に、村上・前田両先生が階上に住み込んだ。出入口の傍にテニスコートがあって、山田・長谷川君等の国体級選手が猛練習をやっていたのがなつかしく思い出される。

県立加古川中学校の位置が兵庫県南部の中央であることから、但馬の豊岡と共に通信教育部が設置されたのが23年3月であった。

昭和23年7月には旧制中学校は教育制度の改正によって新制高等学校として発足した。加古川中学校と加古川高等女学校とは職員生徒を折半交流して、加古川東高校と加古川西高校として出発した。

加古川東高校としてスタートすると同時に校章・校訓・校歌が必要となった。校訓は高松先生を職員会議で検討を重ねて決定した。校章と校歌は職員生徒から募集した。校章は生徒の応募作品の中から選定して決定し、校歌は高橋きさの先生のが選ばれて、仕上げは富田碎花先生をお願いをした。作曲者の須藤五郎先生を迎えての校歌発表会は新制高校のスタートとして意義深いものであった。

昭和24年度は創立25周年にあたるので、体育館の床の張替え、クラブ部室・自転車置場の新設等の記念事業をやり笹田和子女史を迎えての音楽会、桐竹紋十郎一座を迎えての文楽鑑賞はなつかしい思い出である。

昭和25年度からはいよいよ内容の充実に入力することを申し合わせて、校風の刷新、大学への進学指導、クラブ活動の指導強化等に全職員が協力して努力を重ねた。大学進学は姫路西高をライバルとして、クラブ活動は神戸・阪神の諸学校を目標として頑張った。

昭和26年になってから運動場の拡張、家庭科教室の新設等の計画を立てはじめたが、突然に豊岡へ転動となったので、清水校長に申し送った。

加古川在職は3年半であったが、学校長としての初舞台であったので、思い出も多く、10年近くもお世話になっていたような気がする。加古川東高校が創立当時の建学の精神を原点として、100周年を目指し、更に一層の躍進をされるよう念じて止みません。

(7代<高校初代>校長)

記憶を辿って

本 田 愛 良

創立50周年を迎えるに当たって、在職中のことを書くようにとのお手紙を頂きましたので、拙文を綴って責をふさぎたいと思います。

孔子は30にして学成ると申しましたが、私は晩学して30才で東京物理学校を卒業し、間もなく昭和18年4月当時の松本従之校長に望まれて赴任いたしました。それは、ドウリットルが東京を初空襲した数日後でありました。数学教師としての私は、幾何・代数のほか物理も受持ちました。創立以来の先生方が姫路中学に負けるな追い越せの意気込みをもって指導に当たっておられるのをひしひしと身に感じ、自分もがんばらねばと意を決したことでした。今思い返せば生徒はまことに熱心でよく勉強し緊張感が教室に充ちていたと思います。然し既に戦争中であり、軍事教練は相当にきびしく、教科においても、軍事に関係のある内容を多く取り扱うようになりました。特に放課後1時間、当時の海老名教練教官の指導で生徒は銃剣術の基本練習を受けました。

日々に戦争は激しくなり、上級生は各工場へ学徒動労報国隊として働きに出ました。1・2年生が学校に残って勉強していたように思います。私も県庁学務課に呼ばれて、科学技術者という名目で半年間単独で工場へ行って働けという命を受けて、飾磨の山陽特殊製鋼へ行くことになったのです。数学専攻がさして工場で役立つとも考えられなかったのですがやむなく工場へ出向いて、手頃な仕事の手助けをいたしました。

昭和20年の始めにその任務も終って学校に帰って来て授業をすることになりましたが、その頃は大部分の生徒が工場へ動員で出ており、少数の生徒が学校で勉強しているのみでまことに淋しい限りでした。

ある日、空襲警報のサイレンがけたたましく鳴り響いた直後グラマンがやって来て日毛に小型爆弾を落とし、校庭も機銃掃射を受けました。丁度休憩時間で校庭の片隅で数十人が遊んでいたのですが、グラマンを見つけるやいなや、校舎の中に入るやら、運動場の隅に設けられた防空壕の中へ飛び込んだ瞬間バリバリッという音と共に機銃弾が校舎すれすれに生徒が遊んでいたあたりに飛来して土煙りを上げました。幸い誰も射たれたものはなかったが、壕の中へ飛び込んだ生徒は中に水が溜っていて靴やズボンの膝下を濡らしてし

まったことでした。

戦争も終りに近づきつつあった昭和20年7月初め頃姫路が空襲で大被害を受け、次は加古川がやられるとの噂が立ちはじめました。そのせいか加古川駅前には空家が目立ち始め不用品の投売りがありました。烏打帽子1個10銭の札がかかっていたが買う人がいないようでした。

8月15日ついに終戦を迎え、数日後職員は期せずして全員学校に集りました。松本校長は校長室で数日間瞑想して室外へは出られませんでした。

終戦後が大へんで戦場から帰還の先生がふえ賑やかになったものの食糧不足で増産に励まなければならないということで、校庭を掘り起し、飛行場跡へ行って開墾して、甘藷を植えたりしました。日々に物価ははね上がり闇市ができ、規則は猫の目のように変わり、デマが飛び落付いて勉強できない状態が続きました。丸千1匹が闇市で1円50銭もして教員の給料を日給に直すとその日の弁当代にも満たぬ状態でした。

食糧難は相当期間続き買出し人などが汽車にあふれ通勤も容易でなく、遠く播但線の沿線から通っていた私は粗食のせいもあって胃痛にかかり、駅の陸橋の上下にも困難を感じ、やむなく郷里に近い福崎へ昭和22年7月転動させていただき現在に至っております。

希望に燃え充実しつつあった加古中が現在東播に雄を誇る加古川東高校となり、その間幾多の秀れた人材が輩出し、早や50年の歴史を経て益々隆昌に向っていることに深く敬意を表わし喜びに耐えません。

こゝに50周年のお祝いを申し上げますと共に今後の発展を心からお祈りして擱筆します。

清新澆刺とした自然児

水 池 誠 一

私はシベリヤから復員してきて、昭和23年9月から昭和31年3月まで、7年6ヶ月加古川東高でお世話になりました。その間3回生、5回生、7回生かと思いますが、いずれも2年3年と担任の仕事をさせていただき、10回生の諸君には1年生の時だけ担任をさせていただいたように記憶しております。私自身にしましても、復員して就職し、結婚して2児をもうけるまで、加古川東に勤めさせてもらいました。

とくに昭和20年前半は3回生ぐらいまでの年代と思いますが、終戦により統制一本の戦時体制が解体し数百万の男たちが社会に復帰し、食糧難の上、衣なく住

なく職とて定まらない時に、進駐軍の通達により新制の高等学校制度が施行され、有史以来初めての男女共学となり、不安と物めずらしさの中で、男女同年令の者が、同じ教室の中で授業をうけることになり、教科の差違、進度の差違という問題を内蔵しながら、一方共学のための施設(家庭科教室・更衣所・便所)などあわただしくにわかごしらえながら進められました。しかし学校全体として新鮮であり、毎日毎日めあたらしく、男女の生徒諸君はそれぞれ希望と情熱をもって、全員が清新澆刺とした自然児の姿であったと思います。予科練から再び学校に復帰してきた生徒のすさんだ心もすっかり学園の雰囲気の中にとけこみ、時にはこっそりと図書館の炭火に飯ごうをかけて昼飯をつくっていた諸君でした。

生徒諸君には受験の波いまだおしよせずという時で自身のペースにより勉強しようと思えば猛烈にやるし、反対に手をぬこうと思えば相当思い切ったことをするし、他からの圧力によって強制されての勉強というのはすくなく、マイペースでのびのびとしていたように思います。自習時間とか放課後は適当に運動をしていたので、クラブに入らないで運動のうまい生徒がかなり多かったと思います。そんな諸君は今社会で随分と学生時代の特技(?)を役立てていることでしょう。進路の方も男女合せて進学就職半々くらいで、今では社会の中堅として活躍しておられると思います。この年代の諸君はまことにおおらかであり、赤裸々なものであり、過保護という語すらなく、公害なんて考えるよすがもない時に、男女共学という民族未曾有の新形体を見事定着させて卒業していった加古川の自然児といった気がしてなりません。最後まで自然児でいてください。

加古川中学校・加古川東高校小史

そのI

略年表

一、明治期

本校の設置は、加古印南両郡の多年の要望であり、明治38年通常県会で「加古印南ノ地ニ中学校増設ニ関スル意見書」が議決され、時の県知事服部一三氏に提出された。

翌39年にも重ねて同趣旨の意見書が議決された。

当時、中学校は県立で神戸、姫路、豊岡、龍野、柏原、洲本、伊丹、小野、私立で鳳鳴があった。

更に明治44年の県会で同様の議決があり、服部知事に提出されたが、いずれも県財政の都合で見おくられた。神戸二中が明治41年に設置されている。

二、大正期

大正11年本校建設に要する土地 8,000坪及び建築費の30万円は各町村負担とし、本校設立の実現を期することとなった。

各町村長中10名の委員を作り、このうち加古川町長小山十次、鳩里村長藤田太郎治、米田村長松本増吉、伊保村長中谷与吉郎の4氏を特別委員とし、この4氏の奔走久しい努力の結果、目的は達せられた。

両郡町村負担金の中に伊藤長次郎、多木久米次郎、大西甚一平の諸氏が巨額の寄附をされ、これらと土地8,000坪の目録を添えて「寄附採納願」を大正11年12月18日付折原巳一郎県知事に提出した。県会をはじめ大正12年より3年間の継続事業として設立、建築起工を決定した。費用は33万7,213円であった。(内30万は上記地元分担であったと思われる)

ところが不時の火災で一部を焼失した為に、復旧の必要が生じ継続事業の期間を1年延長し支出金額は、48万3,873円と更正したのが大正13年であった。

当時、大正9年鳳鳴が県立に移管されたのをはじめとして、神戸三中、市立尼崎中、市立明石中が本校と相前後して誕生している。

大正13年

2. 9 文部省兵普第8号を以て本校設置の件認可せられる。生徒定員750名。
兵庫県視学官学務課長古川静夫、本校校長事

務取扱を命ぜられる。

2. 25 兵庫県立加古川高等女学校内に本校仮事務所を置く。
3. 14 兵庫県社会教育主事兼視学委員瓜生兵吉氏、本校校長に補せられる。
3. 23 兵庫県立加古川高等女学校で、この日より3日間入学試験施行。
3. 28 合格者150名の氏名を発表。
3. 30 教室1棟並に小使室及附属建物が竣工。
4. 7 兵庫県立加古川高等女学校の講堂で、第1回入学式を挙げる。同14日新築校舍普通教室1棟が完成し、授業開始。
5. 10 印南郡曾根町(曾根の松)に第1回遠足。
6. 2 東宮殿下(現天皇陛下)御成婚記念奉祝式を挙げる。
6. 19 校友会誕生、各部の委員が任命される。
7. 11 本日より19日まで希望者140名高砂浦で水泳練習(以後毎年あり)
9. 30 本館及講堂、生徒控所(後の体育館)教室1棟並武道場銃器室の建築が竣工。
10. 18 父兄会(第1回)出席者135名。
10. 22 御真影並教育勅語謄本下賜。瓜生校長、大河原教諭が兵庫県庁に出頭、伝達式をうけ午後1時3分加古川駅着列車で捧持し、本校職員生徒地方官民沿道に奉迎、続いて奉戴式を挙げる。
11. 30 午後8時45分南棟普通教室より出火、本館教室2棟小使室を全焼し、武道場生徒控所の一部を焼失した。御真影は加古川警察署に奉還職員生徒が跡始末に協力、僅か3日間の休業で講堂を4部に仕切り授業開始。
12. 1 御真影を加古郡役所にうつす。
12. 8 習学班の組織を作る。通学区域を27に区画し各団に団長、副団長を置き、担当教諭を定める。風紀衛生の指導、社会奉仕作業、非常の際の召集伝達の訓練をするものである。
12. 27 御真影を加古郡役所より本校にうつす。

大正14年

3. 31 教室1棟、小使室及附属建物竣工。準耐火構造である。
5. 3 職員生徒一同、神戸方面旅行、絹業博見学。

- 5. 5 講堂の仮教室より教室に移転。
- 6. 13 1年は曾根、2年は二見に遠足。
- 6. 24 本校生徒は挙手の敬礼を採用、実行となる。
- 10. 3 職員生徒一同、書写山に遠足。
- 10. 11 第1回学芸大会。
- 11. 30 災厄満1年にあたり追憶の会。職員生徒の追憶談、橋本加古郡長、小山加古川町長、松井警察署長等の講話。又校友会誌第1号火災追憶号を発刊、
- 12. 7 皇孫殿下御降誕奉祝式挙行。旗行列で加古川町を一周する。同12日にこの記念樹を中庭に植える。
- 12. 18 理化学実験室新築。並に本館竣工。

大正15年

- 2. 2 姫路第39連隊留守隊長瀬中佐による本校最初の教練査閲がある。
- 2. 15 全校遠足、城山に行く。
- 4. 19 瓜生兵吉校長は県立豊岡中学校長に栄転。後任に県立山崎高等女学校校長藤井慶乗赴任。
- 5. 25 伊豆少将講演。武道場の額「養移体」の3字の揮毫を請い得た。少将は日露戦役に乃木將軍幕下として出征した人である。
- 6. 19 教室1棟竣工
- 9. 18 庭球部コート開き。武道場の東と西に新設。
- 10. 7 本日より4日間、3年生が姫路39連隊に兵営宿泊。(最初である)
- 10. 18 全校遠足、明石太山寺より鷹取駅をまわり帰校。
- 11. 1 水丘村方面で姫路39連隊と県立農学校及本校で連合演習。(最初である)
- 11. 3 本校全員長距離競走(最初)。午前10時学校発国道を東へ走り、平岡村新在家より南下、別府に至り海岸を西へ尾上を経て帰校する。約3里5丁、1着3年1組佐伯、53分50秒
- 12. 25 午前1時25分天皇陛下崩御、午前10時30分校庭集合、遥拝式を挙行、哀悼の意を表する。

昭和2年

- 2. 7 大正天皇御大喪、運動場に祭壇を設け、午後5時より講堂で御真影を拜し学校長は玉串を捧げ遥拝式を行う。
- 5. 17 職員生徒90名軍艦扶桑に便乗、高砂浦より神戸に向う。
上記以外の職員生徒は高砂浦より淡路の西岸を船行、観潮台(亀の浦)に登り鳴戸の渦を見る。帰途は洲本經由明石海峡を通り高砂浦

に着く。

- 9. 20 明治節制定される。趣旨を話し明治天皇に關する訓話あり。
- 10. 26 第1回修学旅行出発。9時加古川駅発翌27日呉着、海兵団海軍工廠を見学、江田島の海軍兵学校見学、次に宮島参拝宿泊。28日広島の浅野泉邸に遊び大本營跡見学、岡山より宇野高松を経て金比羅宮に参拝宿泊。29日高松栗林公園に遊び午後8時加古川駅着。

昭和3年

- 5. 23 校旗制定、5年松浦嶺を旗手として奉戴式を挙行。意匠は紫地の中央に徽章を金モールで縫いとしたもの。旗竿の先端に戟をつける。
- 6. 7 開校式、正門前に祝開校の緑門を造り、国旗を翻す。
10時より挙式、県知事式辞県会議長以下來賓祝辞、祝電、11時終る。
町公会堂前の会場で協賛会主催の祝賀會に來賓を、本校控室で父兄を招待、生徒には各記念品を配布。來賓273名、父兄349名。
夜は楽隊を先頭に全校700の生徒の提灯行列を全町にくりだす。9時終了。
第2日は運動會。
第3日は講演會、高部乃木堂の軍事講談、旭大象の琵琶。
この3日間教室で生徒の書画參考品を展示、特別教室で設備と実験を公開する。各組毎に催し物、作り物、或は模擬店を設け種々の食品を販売する。
- 10. 2 4年生広島より四国方面に修学旅行。
- 10. 9 御真影下賜、校長藤井慶乗、書記村上喜代治が県庁に出頭、伝達式をうけ午後10時28分加古川駅着の列車で捧持、職員生徒奉迎し奉戴式を挙行。
- 11. 10 御大典奉祝式を挙行、全校職員生徒旗行列を行う。
- 11. 23 5年生高岡射撃場にて実包射撃を行う。
- 12. 8 天皇即位式が11月10日に挙行され、本校も記念事業として①植樹、②温室の建築をする。
①は生徒各自に樹木1本ずつ持参させ中庭に植える。更に吉野桜100本を購入して校庭の周囲に植えた。②は11月初旬に起工、本日竣工、建坪20坪、総工費1,210円、費用は生徒1人宛2円を出す。

昭和4年

1. 12 全校職員生徒、京都御大典式場拝観の為上洛
3. 4 第1回卒業式、117名、卒業記念にテント2張を母校に寄贈。
4. 27 藤井校長は山口県立下関高等女学校に栄転。
4. 30 三浦教諭、校長事務取扱を命ぜられる。
5. 11 加古川町は鳩里村と合併、町の依頼により全校生徒の旗行列を行う。
6. 5 天皇陛下、大阪の城東練兵場で近畿2府5県の諸団体約12万人の御親閲をされる。本校4年5年生徒177名職員6名参加。
6. 7 天皇陛下本県に行幸、本校職員生徒一同は早朝より上神、ご通過の沿道にならび奉迎。
6. 26 村上書記逝く。同書記は島根県美濃郡高城村の人、日露戦争に従軍して後本県調査部長となり大正13年3月本校に奉職した。
7. 25 岩村寅之助先生、小野中学校長より着任。
8. 5 第1回同窓会出席者約80名。

昭和5年

1. 25 武道大会を開く(最初)。武道場に大神宮を奉祀。
5. 22 本年度より音楽科を新設、校友会基金より、600円を補助して1,200円のピアノを購入。
5. 29 ロシア人の音楽家を招き弾き初めをする。午後公開授業。
6. 2 5年修学旅行、広島より九州方面。
6. 4 4年修学旅行、広島方面。
6. 13 本校弁論部誕生「正しき思想」「真の言論」をモットーとする。
7. 3 校友会基金より200円を支出してサイレンを設置する。講堂で山本正男氏の単独オーケストラの演奏あり。
9. 6 ラッパ手教育開始、今月中毎土曜日。
10. 1 本日より4日間青野原で宿営野外演習。
10. 26 全校職員生徒は神戸灘の実業女学校に赴き露台より観艦式を拝観。午後は海港博覧会見学
10. 30 講堂の左右に教育綱領である「質実剛健、自治創造」の額をあげる。費用128円は5年生の寄贈、書は曾柴山先生の揮毫。教育勅語の煥發40周年記念事業であった。
11. 9 朝香宮鳩彦王殿下台臨、校庭に記念樹を植える。この頃4日間陸軍大学生の演習の為、校舎の1部を使用。
11. 26 県下中等学校49校の上級生5,000人が東西に分れ連合演習。本校は西軍に属し宝殿より加古川堤防に至る。あと知事と師団長の閲団式そのあと加古川小学校での分列式、次で本校

校庭で講評。(連合演習参加の最初)

昭和6年

1. 15 御真影を校長と書記が捧持、県庁に奉還。武道大会。寒稽古のおさめ会を兼ねる。
1. 24 校長岩村寅之助、書記龍見良吉は姫路師範学校に出頭、今上陛下の御真影を拝受。午後0時30分帰校、奉戴式を挙行した。
4. 8 管理衛生部を新設。
6. 1 夏服着用、今後夏冬ともカラーを使用することに定める。
6. 2 4年生広島九州四国に修学旅行。
9. 12 本年8月同窓会の総会で議決があり、同窓会基金より275円を出しラッパ鼓隊の用具を購入、本校ラッパ鼓隊を設置。楽長以下17名で編成した。
9. 23 支那水害救済金に関し校長の話あり、支那水害義捐金を集める。

昭和7年

3. 4 第4回卒業式、記念に放鳥籠を寄贈。
9. 18 満洲事変1周年を記念し、ラッパ鼓隊を先頭に陸軍歌を唱いつつ町内行進を行う。前日(17日)満洲事変記念行軍及び秋元大尉の上海における実戦談をきく。
10. 26 帝国発明協会兵庫支部展覧会に4年西寺君特等賞をうく。4年中村君は佳良であった。
11. 16 天皇陛下、大阪城東練兵場で近畿2府5県の各種団体約8万人の御親閲あり、本校は岩村校長以下生徒5年生75名参加。
11. 28 第1時限始、控所で徴兵60周年記念日に関する訓話。

昭和8年

3. 4 第5回卒業式、記念の為庭園及び控所に時計を寄贈した。
4. 27 靖国神社大祭につき高砂神社参拝(最初)。
9. 23 御影師範学校主催全国中等学校柔道優勝大会に出場、優勝する。(主将は花川)
10. 8 第1回兵庫体育協会主催県下中等学校剣道優勝大会が甲陽中学校で開かれ、本校が優勝する。(主将は北村)
11. 10 国民精神作興に関する勅語奉読式、引きつづき職業指導に関する注意がある。
12. 23 皇太子殿下ご降誕、校庭に姫子松を記念に植える。
12. 29 生徒非常召集、皇太子殿下御命名式奉祝旗行

列。

昭和9年

3. 4 第6回卒業式、記念に庭園2カ所寄贈。
3. 13 建武中興600年記念式、講話と遥拝。
4. 10 昨年8月同窓会の協賛をえ、同窓会基金より2,000円、校友会基金より1,000円、計3,000円の予算で県営繕課に設計等万事を依頼、中庭に奉安殿を建設する。本日神官を招き御真影の奉遷式を行う。
4. 29 天長節、式後第1回卒業生花井秀次君寄贈の校旗掲揚台竣工、本日掲揚式を行う。
4. 30 岩村校長退職、尼崎市学務課長に就任。
5. 4 中井修一先生小野中学校長より赴任、第4代校長となる。本日新任式。
5. 11 昼食後控所で忠霊塔の献金の話あり。
5. 31 昼食後控所で6月4日より更衣、及び6月1日より校内でパンの販売をするにつき注意あり。
6. 4 第4学年九州方面に修学旅行。
6. 5 東郷元帥国葬につき訓話遥拝。
6. 7 本校国漢科で起草した校歌が本校音楽科で作曲、本日の創立記念日に発表した。
10月8日頃に東京市芝区松本町44、共益社書店で楽譜印刷して配布した。
9. 21 大暴風雨の為、雨にぬれた者多数につき授業中の服装を適宜とする。
9. 23 兵庫県体育協会主催西部中等学校剣道優勝大会を本校で挙行、第1部は本校が優勝した。(第2部は姫路師範が優勝)
9. 29 昼食後控所にて風水善義捐金10銭、大楠公銅像寄附金10銭を提出するよう話あり。
10. 3 5年生青野原野外演習。
10. 20 5年生高岡射撃訓練。
11. 1 創立10周年記念式挙行。
展覧会開催(3日まで)……生徒作品219、卒業生作品30、職員作品41、器械標本192。
11. 2 仏式により講堂で物故会員慰霊祭挙行。
(客員2名、会員27名の霊であった)
11. 3 明治節拜賀式ついで9時より記念運動会(演技56)午前9時より午後4時迄、この記念事業の1つとして1,200円の基金で奨学資金を創設する。
更に校長室前の広場に純日本式庭園を築く。又運動場の四方に西は4間間隔、北南東は3間間隔に松を植える。これは母里村井沢豊松氏が特に57本を分与せられたによる。

11. 15 5年生が軽機関銃2つ寄贈。献納式と試射。

昭和10年

1. 8 始業式、剣道資格試験合格証伝達式
(2段2名初段7名)
1. 16 武道寒稽古、剣道は講堂、柔道は道場、26日武道大会。
2. 4 全校生徒吃音近視調査、吃音28名、近視222名。
2. 25 東久邇第4師団長官殿下ご台臨。
4. 26 第1時限生徒控所で長尾鶏見学。第4・5年生の一部多木製肥所見学。
5. 8 5年生は加古川第1小学校における徴兵検査見学。
6. 2 4年生九州中国方面修学旅行出発。
6. 16 本校で西部中等学校剣道大会。
6. 20 連合演習参加。
10. 9 5年生青野原野営。
11. 1 熱田神宮遷座祭につき臨時休業、訓話遥拝式
11. 15 5年生高岡で実包射撃。
11. 28 4年生姫路39連隊に兵営宿泊。

昭和11年

1. 16 寒稽古、25日武道大会、田畑範士来校。
2. 10 5年生寄贈の軽機関銃献納式。
5. 9 午後道場にて下司書店出張して映写会、全校視覧(9月にもあり)
5. 17 5年生騎兵10連隊軍旗祭に参列。
5. 18 加古川第1小学校における戸山学校軍楽隊の演奏見学。
6. 1 4年生九州、中国方面修学旅行。
6. 3 5年生徴兵検査見学。
6. 19 賀陽宮恒憲王殿下ご台臨、師団長県学務部長等が先着、運動場でご闊団式、生徒の成績をご台覧、次に授業をご視察。なおこの月29日30日この折の成績を一般公開。
10. 2 5年生高岡実包射撃。
10. 4 県下軟式庭球大会で本校が優勝、優勝盃をうく。
10. 5 5年生軽機関銃寄贈。
10. 6 5年生青野原野営。
10. 18 姫路高等学校主催、県下中等学校射撃大会で本校優勝。
10. 25 神戸みなと祭軟式庭球大会で本校準優勝。
賀陽宮殿下チーム対姫路赤十字病院チームの軟式野球試合が本校校庭である。殿下妃殿下等ご台臨。この後宮殿下のご来校度々。

- 10. 29 第5学年54名、第4学年21名、観艦式拝観の
為神戸に旅行。残留5年は荒井醤油工場を
経て曾根神社へ、4年は神野村城山に行軍。
- 11. 3 5年連合演習参加。
- 11. 14 校内庭球大会、4年生校内にて狭袴射撃。
午後1時より会議室で公民講座を開く。以後
21日まで奇数日実施。
- 12. 5 4年生軍隊宿泊。
- 12. 12 大島鎌吉氏のオリンピックの講演。

昭和12年

- 1. 23 13日より武道寒稽古を本日校内武道大会。
- 3. 13 五ヶ条御誓文換発70周年記念日につき訓話。
- 4. 19 梁在寛君の苦心体験談を講堂できく。
- 5. 17 細田教諭心得新任式。
- 6. 6 4年生中国九州方面修学旅行出発。
- 6. 20 小野中における西部中等学校剣道優勝大会に
優勝、優勝刀を受く。
- 6. 23 5年生加古川公会堂における徴兵検査見学。
- 6. 27 西部中等学校柔道大会において本校優勝、優
勝旗をうく。
- 8. 1 本日よりラジオ体操実施。(20日まで)。こ
の年より毎年、加古川尾上野口米田の学友団
は校庭で、その他の団員は出身小学校庭で。
午前8時召集、中井校長の事変に関する訓話
武運長久祈願(毎月1日に行う例となる)。
- 9. 1 加古川町出身の長永伍長戦死、遺骨出迎、加
古川学友団が駅頭に行く。以下これに類する
もの頻りである。
- 9. 9 満洲国駐日大使館秘書官鮎沼氏来校、4年5年
生に対し満洲国立建国大学々生募集に関する
講談。
- 9. 18 第1時限始、全員運動場集合、中井校長より
満洲事変記念訓話並に遥拝。
- 9. 28 中井校長より全国中学校職員生徒一同より陸
海軍飛行機献納の件につき訓話。
- 10. 4 本日より6日迄防空演習のためサイレンの使
用禁止。
- 10. 6 下司書店出張、事変ニュース映写会。
- 10. 12 5年実包射撃。
- 10. 13 午前8時講堂で国民精神総動員強調週間第1
日につき国歌合唱、遥拝、中井校長訓話。以
後1週間毎日遥拝訓話ラジオ体操を行う。
戌申詔書換発日につき詔書奉読式。
- 10. 15 放課後、怪力者来校体験談その実演あり。
※ この頃戦死者の公葬頻り、その都度先生参列
- 10. 25 5年生連合演習参加。

- 庭球部全国大会に出場のため上京。
- 10. 28 加古川町戦捷祝賀行列に一部学友団参加。
- 11. 7 姫路高等学校主催の県下の射撃大会に本校優
勝。
- 11. 10 国民精神作興週間第1日、詔書奉読、訓話。
- 11. 26 5年と4年の一部が公会堂における大毎記者
の北支事情の講演聴講。
- 12. 11 第2時限後全校職員生徒運動場に集合。南京
陥落の祝賀式挙行。ひきつづき全校、日岡神
社参拝、加古川町内を行進。
- 12. 15 4年5年生飛行隊を加古川駅頭に出迎える。
- 12. 16 下司書店映画会。
- 12. 22 午後5年生より寄贈の擲弾筒の献納式、ひき
つづき音楽部の演奏会。

昭和13年

- 1. 22 校内武道大会(19日より寒稽古)。
- 1. 28 午前10時各教室で第10師団戦死者慰霊祭の遥
拝式並に訓話。午後県会議員金光氏の北支慰
問の講演会。
- 2. 10 講堂で安武少佐の支那事変に関する講話。
- 4. 12 全校で学校前国道に出てイタリヤ使節パウリ
ツチ団長以下22名の使節団の西下を歓迎する
- 4. 21 細田先生出征送別式。
- 6. 6 4年生中国、九州方面修学旅行に出発。
- 6. 15 本日より4日間勤労奉仕。学友団を基礎とし
加印両郡農家の手伝、1部は学校で作業。
- 6. 19 姫路中学校における西部中等学校柔道大会で
本校優勝。
- 7. 5 第1時限途中で全校生控所に集合。水害に関
する注意、直ちに帰宅させる。
- 7. 7 支那事変1周年記念日につき登校前、生徒は
学友団毎に各町村における武運長久祈願祭に
参列。登校後講堂で記念式、遥拝訓話黙禱。
- 7. 11 5時限講堂にて支那事変に関する勅語奉読。
- 7. 14 午後控室で中井校長の阪神地方水害視察談。
- 7. 21 本日より3日間神戸地方水害復旧作業に向
く。(須磨妙法寺川の改修)
第1日 5年生
第2日 4年生
第3日 3年生
- 8. 6 全校で飛行場の勤労奉仕(5日間)。
- 9. 4 4年5年藤江の滑空場整地作業。
- 9. 9 藤原大尉日支事変体験談(3年生のみ)。
- 9. 15 満洲国承認記念日(校長より訓話)。
- 10. 5 5年生青野原野営。
- 10. 11 5年生高岡実包射撃。

- 10. 24 5年生加古川原を中心とした東播中等学校連合演習に参加(2日間)。
- 10. 28 武漢三鎮陥落祝賀式、皇居遥拝訓話、旅行列泊神社参拝。
- 11. 7 4年生藤江滑空場整地作業。
- 11. 11 本日より3日間全校で加印両郡の軍人遺家族に対し農事奉仕。
- 11. 26 藤江グライダー滑空場落成式、5年正副組長出席。

昭和14年

- 1. 28 武道大会(18日より寒稽古)。
- 4. 13 学校教練実施15周年記念につき校長訓話。
- 5. 2 健康週間第1日遥拝訓話、ラジオ体操(この1週間毎日あり)
姫路護国神社例祭のため教室で午前10時遥拝柔道、剣道部員10名同神社奉納武道大会参加
- 5. 6 全校行軍、八幡村宗佐八幡宮に参拝。
- 5. 20 朝礼の際、御親閲拜受のため上京の代表生徒10名よりあいさつ。
午前8時27分加古川駅発。
同22日東京宮城前にて御親閲、同時刻を期し校庭で訓話遥拝、分列行進、泊神社参拝、23日同代表帰校、24日講堂で学校長より訓話勅語奉読式、当日徳富蘇峰氏の講演あり。
- 6. 3 3年有志、大毎の従軍記者の戦況報告会(於公会堂)をきく。
- 6. 5 4年生生徒数名樞原神宮建国奉仕作業のため午前7時52分加古川駅発、7日に帰校。
- 6. 12 本日より3日間加印両郡各町村の出征将兵遺家族の麦蒔農事奉仕作業。
- 7. 7 支那事変2周年記念式、午後記念防空演習、全校徒歩通学並びに徒歩神社参拝。
- 7. 25 剣道部選手京都武徳殿の大日本青年演武大会に出場。26日に柔道部も出発。
- 7. 29 5年徴兵検査見学。
- 8. 14 4年生30名海軍々事訓練講習に参加。
- 8. 24 青少年学徒に賜りたる勅語奉読式。
- 9. 18 満洲事変8周年記念につき学校長訓話。
- 10. 3 軍人援護に関する勅語奉読式。
- 10. 4 1年生公会堂における陸海軍航空展覧会見学
- 10. 23 5年生防空講演を公会堂できく。
- 11. 1 興亜奉公日につき学校長訓話。
- 11. 6 5年生高岡実弾射撃。
- 11. 14 本日より3日間銃後勤労奉仕。加印両郡出征将兵遺家族の稲刈奉仕作業をする。
- 11. 22 剣道部員は鳥取歩兵第40連隊における第10師

団管内剣道大会に出席。

- 12. 5 西田海軍大佐講演。

昭和15年

- 1. 27 武道大会(寒稽古は17日より24日まで)。
- 2. 13 紀元2600年紀元節に賜りたる詔書奉読式。
- 4. 9 中井校長送別式(尼崎中学校長に栄転)松本校長新任式(山崎高等女学校より来任)
- 4. 29 宮中喪中につき天長節拜賀会を行わず。
- 5. 28 5年修学旅行に出発。
- 6. 4 4年修学旅行に出発。
- 6. 11 本日より3日間加印両郡遺家族農事奉仕作業
- 6. 25 陸軍大尉細田淳先生6月19日戦死の報あり、追悼式。
- 7. 5 第5学年1組勤労報国団実習。
- 7. 7 支那事変第3周年記念式講演、閲兵分列式並に泊神社参拝、皇軍武運長久祈願。校長生徒代表は陸軍病院慰問。
- 8. 29 本日より3日間飛行連隊で集団勤労奉仕作業
- 9. 13 故細田先生公葬、校長同窓会代表生徒代表が参列。
- 9. 18 満洲事変記念日につき記念講演、滑空機加古中第1号機命名式(於運動場)一滑空部創設は14年度。
- 9. 21 日毛グラウンドに上記グライダー処女滑空。
- 9. 29 本校職員並に卒業生の英霊に対し慰霊祭。(細田先生と卒業生22柱)
各遺族を招き講堂にて行。細田先生厳父が遺族を代表してあいさつをされる。
- 10. 30 教育勅語換発50年記念式。
- 11. 10 紀元2600年奏祝式。
記念行事として①勤労報国団の行事、多木製肥所所有の水田3反余を借入れる。学校の校外特別実習田として経営をし、食糧増産の実をあげ又勤労愛好の精神を養う事とした。
4年5年の農業科の時間をあてて管理経営をする。
②記念文庫を作る。
③記念植樹、校長職員生徒が記念式後奉安殿前に集り松を植えた。
- 11. 12 教育勅語換発50年記念に賜りたる勅語捧読式
- 11. 15 本日より3日間加印両郡遺家族農事奉仕作業
- 11. 21 旧職員新京陸軍々官学校教授橋本源吉氏が来校講演。
- この年 同窓会は出征同窓の慰問、戦傷病同窓の見舞戦死者の慰霊祭をし、講堂にその肖像を掲げるために総会で議決をし寄附を募ることにし

た。1口1円。この年「支那料理店「冠珍」にて加古中同窓会」との記録あり。

昭和16年

この頃校友会は改組されて報国団となり組織は下記のようにあった。

- 1 総務部
- 2 鍛錬部
奉仕作業班、剣道班、柔道班、野球班、庭球班、蹴球班、競技班、水泳班、剛健旅行班
- 3 国防訓練部
銃剣術班、射撃班、滑空班、防空班、情報班。
- 4 学芸部
図書班、団誌班、音楽班、書道班、詩吟班、工芸班。
- 5 生活部

保健衛生班、農芸班、慰問班、
※ 9月には国防訓練部に、乗馬班を新設し、憲兵隊馬場で毎週練習をする。

7. 1 学校前の水田で職員一同田植。
4年5年は青野原演習に参加、5年生は往復とも強行軍をした。
8. 3 はじめて同窓会より母校永年勤続者（10年以上）に感謝状・記念品料を贈る。（10名）
この年 遺家族農事奉仕を食料飼糧等増産勤労奉仕作業に拡大、春秋5日ずつ出勤。

昭和17年

この年 日曜勤労奉仕、嬉野八紘舎整地作業。

この年 滑空機格納庫新設。

昭和18年

1. 21 この年中等学校令改正、修業年限1年短縮、教科書は国定となる。

昭和19年

この年 学徒動員、2年尾上飛行場。

3年1組（堀中）キッコーマン醤油、2組（井置巧）多木製肥所、3組（松岡確）日鉄炉材KK、4組（有藤秀夫）日本造機KK後多木へ
4年（後藤・海老名・窪田・望月）三菱化成伊保工場・国鉄姫路機関区車輛修理工場
5年 東洋機械金属KK
配属将校随時査閲。

1. 8 学徒動員は毎年4か月の継続ときまる（閣議）

2. 9 戦時措置として芸能科を廃止、工作を課すこととなる。（閣議）

7. 11 低学年の動員決定。（閣議）

昭和20年

- 4・5年生は授業と並行して尾上飛行場整地作業に従事する。
 - 教科内に於ても軍事に関するものを扱う。
 - 放課後1時間銃剣術基本練習。
 - 学校、機銃掃射を受ける。
8. 15 敗戦。数日後、職員期せずして集合、松本校長瞑想して校長室を出ず。
○ クラブ活動初まる。野球・庭球・陸上・相撲・書道・絵画など。
○ 進駐軍将校学校視察、学校事情に関する報告書提出。
○ 進駐軍の教育担当者フォークダンスを指示、そこで、体育館で盆踊り。

この年9月文部省は新日本建設の教育方針を公表、中等学校以下の教科書より戦時教材を削除するよう通達した。又学校報国団を解体し、自治的校友会に再編するよう通達した。更に「国体の本義」「臣民の道」等の使用を禁止し、職業軍人の教職よりの解職-適格審査委員会をもうけて適不適の決定をする一休録用具の廃棄、武道用具の廃棄、滑空機の廃棄、奉安殿の撤去、修身国史地理の授業停止（この時間は体育或は食糧増産の目的の補充をする）等の通達があった。

昭和21年

4. 職員室本館二階中央に移転。
○ 運動・文化部誕生（野球・山岳・籠球・水泳・音楽・工作・衛生・書道・尺八同好会）他に庭球・陸上競技・相撲・絵画があった。
○ 芋畑となっていた運動場の復元作業。

この年1月末に地理科は再開、7月15日より占領目的を阻む行為の罰則を実施する。中学校を5年制にする事が復活した。

昭和22年

この年4月新学制による小学校、および中学校が発足した。

昭和23年

10. 12 運動会
10. 23・24 第一回文化祭を男女共学・高校昇格記念と

して実施、展覧会・劇の他バザー・模擬店もあった。育友会賞を与えた。

10. 自治会改革話題となる(進駐軍の提案によるものか)

11・12・13 交流後最初の秋季校内大会(野球・排球・ソフト・庭球・籠球・相撲)

12. 4 第一回校内マラソン(男子5,000、女子2,000m)

この年 全播新制中学討論大会(参加20校)に於て本校併設中学優勝(於姫路東高)(山本・白藤・三浦・岩佐)

この年 1年生が男女混合共学となつたらしい(併設中学はすでになっていた。)

この年 取引高税印紙の回収に努力を、という記事が「青流新聞」にある。

この年度「本校重大事件番付」(青流10号より)

東 西

横綱	交流男女共学	文化祭
大関	学区制	自治会会則成立
関脇	運動会	青流発刊
小結	長谷川・山田組	文鳥誕生
	国体第三位	

前頭	校内秋季大会	新中討論会優勝
〃	上良教頭栄転	山本教頭村長に
〃	軟式野球優勝	庭球部優勝
〃	田中・水野嬢国体	山岳部アルプスへ
	出場	
〃	競技部優勝	卓球部優勝
〃	山岳部スキー	考古学部土器発見
〃	相撲部近畿大会へ	校内マラソン大会
〃	竹内先生栄転	井内先生教頭
〃	通信部設置	自転車置場新設
〃	駅伝出場	硬球部県大会へ
〃	村社氏来る	与饅会

この頃 校内整備 部室—文化部8室・体育部13室。自転車置場、被服室2、家事室1(武道場改造)、女子便所改造、バレーコート移転、女子バスケットコート新設。

この年 ソフトボール・排球・ダンス・茶道・邦楽・珠算の各部設置。

(青流3号より)

昭和23年度校友会校務分掌

総務部

企画・庶務・会計係 上良・糟谷・西口
自治会係(校内・校外) 中島・谷沢

文化部

一、精神科学部

哲学・心理・論理・宗教班 兼松
政治・法律・経済・社会問題班

歴史・地理・考古学・民族学班 兼松・水田

文学・語学班 蓬萊・平本・水田
竹内・高橋・吉田

二、自然科学部

数学班(解析・幾何) 井置・原・糟谷
物理班 中安・田中

化学班 西村
生物班 前田・当津

衛生班 当津

三、芸術部

工作班(建築) 松岡
絵画・書道・写真班

音楽班(和・洋楽) 原田・西口・長谷川・中安
蓬萊・田中・村上

映画・演劇班 磯部・高橋

四、家政部

料理班 住野
裁縫班(洋・和裁・手芸) 在竹・穂塚

茶・花道班 吉田(薫)

五、園芸部

六、新聞・雑誌部 兼松・吉田・高松

七、図書部 望月・西村・前田・中島

体育部

野球部 硬式班 吉田(薫)・谷沢
軟式班 粕谷

庭球部 前田・平本
籠球部 兼松・山本

排球部 山本・柴谷
卓球部 村上・柴谷

陸上競技部 当津・谷沢
相撲部 谷沢

ソフトボール部 吉田・中安
山岳部 谷沢

ダンス部 柴谷

昭和24年

- 2. 24 陸上競技部の招きにより村社講平氏来校、講演および実地指導。
- 10. 28 二十五周年記念式典、校旗制定、校歌発表。
- 29 同記念音楽会、笹田和子・伊達三郎・神沢哲郎の各氏出演。
- 30 同記念運動会 11.ラグビー同好会結成
- 11. 24 最初の英語弁論大会(The English Oratorical Contest)、新聞部主催。

この年 自治会を生徒会と改める。
この年 クラブ整備 運動一野球・庭球男女・陸上男女・排球男女・卓球男女・相撲・剣道・柔道・山岳男女・ラグビー・ソフトボール女・ダンス女 文化一新聞・音楽・生物・化学・物理・書道・絵画・演劇・地歴・手芸・茶・華・邦楽・雑誌・映画・珠算・放送・図書となる。

昭和25年

この年 東播大会12種目中、6種目に優勝。
この年 野球部後援会誕生。
この年 単位制・選択制が実施されたい。

昭和26年

4. 16 クラブ整備、放送が新聞部から独立、演劇と映画と分離、柔道、水泳が同好会から部へ、手芸・染色と花茶道新設置。
この年 文化祭中止。
この年 前年度より継続の家庭科施設完成。被服・洋裁・ミシン・割烹・洗濯染色各教室、研究室・日本間・更衣室完成。作法室建築計画、運動場拡張案成る。
この年 東播大会全種目優勝

昭和27年

5. クラブ整理、語学・珠算・手芸染色・邦楽・茶花・地歴考古・映画・生物・書道・山岳・写真の各部同好会となる。水泳・化学・物理の各部廃止。
8. 17 第1回道教祭。
9. 3 作法室起工式。
9. 8 松本宏絵画個人展を開く(図書室)

昭和28年

9. 剣道部復活、部員30名余。
9. 24 文化祭復活、3年ぶり。
この年 清水校長、本校讃歌「朝明」をつくる。

昭和29年

5. 21 生徒会会則修正、報道委員会を設置。
8~9月 三十周年記念施設工事、体育館補修・前庭道路改修・中庭砂利・緑化・講堂中央館体育館補強塗装。
12. 生徒会会則改正案成る。
7. 18 応援歌決定、作詞西島三恵、作曲音楽部、清水校長作詞の「それ清流に」と共に文化祭に

発表のはこびとなる。

10. 8 三十周年記念式典、記念誌発行。つづいて9日文化祭、10日運動会。3日には(第6回)文楽興行。
11. 21 長門美保歌劇団来演、「カルメン・蝶々夫人」抜粋。

昭和30年

この年 図書室開架式となる。
6. 6 講演会、鷲義徳氏
10. 16 文化祭を芸能祭と称する。

昭和31年

10. 28 第十一回国体ハンドボール会場として本校グラウンド使用。
11. 26 アイヌ民族無形文化保護会派遣員4名白老町より来校。

昭和32年

4. 28 文楽興行
6. 6 開校記念講演会、田中国夫氏。

昭和33年

5. 10 木下勇先生アジア大会聖火リレー走者となる
5. 16 長門美保独唱会
6. 6 小原正三氏(3回生)講演会。
10. 10 新井克輔氏ハーモニカ演奏会。
10. 24 購買部増築工事始まる。
10. 31 阪口保氏講演会。
12. 3 便所改築工事始まる。

昭和34年

5. 14 小松杯争奪としては最初の弁論大会。
この年 1・2年全員水曜クラブ入部にふみ切る。

昭和35年

2. 1 全面改築のための運動場拡張工事起工式。

昭和36年

5. 10 能力別指導について検討。
9. 19 井内校長欧米視察に出発(11.4まで)。
この年 生徒用傘、各学年50本を備える。卒業記念品としてチャイム。

昭和37年

3. フランス美術展鑑賞。
9. 20 校舎増築起工式。

昭和38年

6. 5 新館竣工式。
6. 「今週の言葉」教室の黒板にも書く。
9. 内規集作成にかかる。

昭和39年

6. 東村氏作品寄贈、本館前に備えつけ。
6. 25 県教育長総合視察。
8. 全日本ゴルフジュニア選手権大会（千葉カントリー）で1年入江勉準優勝。
9. 24 オリンピック聖火リレー全員で迎える。
9. 25 創立四十周年記念式典、清流会よりピアノ寄贈。26日文化祭、27日体育祭。
11. 16 柴垣校長学校提携のため外遊、12月まで。

昭和40年

1. 12 校長帰朝講演会。
2. 17 ピアノ開き。
4. 15 オリンピック映画観賞会。
6. 11 田中国夫氏講演会。
6. 24 第二期改築工事地鎮祭。
8. 9 最初の学年野外活動（13日まで於嬉野）。
9. 10 台風23号のため臨時休業、つづいて17日も24号のため休業。

昭和41年

1. 25 増築竣工式。
研究集録第一集発行。
4. 職員住宅最初の入居
10. 2 運動会、今次以後バザーとりやめ。
11. 14 同和教育推進委員会ひろく。
11. 26 講堂兼体育館地鎮祭。

昭和42年

1. 19 第三期工事竣工式。
3. 1 校務分掌改正案承認、教務から進路が、生徒課から管理厚生が独立。
4. 7 市田事務長逝去。
5. 4 水曜クラブ取りやめ決定。
7. 13 体育館兼講堂竣工式。18日体育館開きとして籠球試合。
12. 年末年始日宿直代行員設置。
この年 体育後援会がクラブ後援会となる。
この年 全校体操開始。

昭和43年

6. 日宿直全面的に代行員制となる。
この年 工事の関係で運動会中止。

昭和44年

4. 14 管理棟新校舎へ移転。
6. 12 音楽鑑賞会、東京交響楽団来演。
7. 15 長島晴雄氏3年対象講演会。
7. 15 生徒の長髪を認める旨発表。
11. 21 県英語研究会本校で行なわれる。
12. 19 狂言鑑賞会、劇団潮流。
この年 木下勇先生ゆづりは賞受賞。
この年 教師と生徒との関係、生徒の政治・社会活動話題となる。

昭和45年

1. 16 職員同和研修会、長浜氏講演。
2. 24 生徒会、全校座談会を行なう。
5. 8 全校生万国博見学。
7. 20 プール竣工式。
12. 17 音楽鑑賞会、栗林義信・飯野淳也・新井克輔・小林崇行各氏来演。

昭和46年

3. 2 高橋典治教諭逝去。
4. 26 時によって制帽をかぶらない事を認める旨発表。
5. 31 第1本館東工事起工式。
6. 5 柏谷博之氏講演会「南極自然と生物」
7. 17 育友会主催地区別懇談会初まる。
10. 19 能・狂言鑑賞会。
12. 1 東播高校美術展（於会議室）

昭和47年

1. 8 第1本館第五期工事竣工式。
2. 4 旧講堂撤去。

〔そのⅡ〕

座談会・戦争前後

日時 昭和48年5月12日

於 本校会議室

出席者 ○当時の先生方 井置巧 磯部博 海老名留治郎 糟谷正一（中2）谷沢四六（中3）村上喜四男（中15）
○清流会・学校 穴田等（中1・清流会長）稲田勇（中9）山本嶺一（中3・司会）馬場鉄夫（教頭）高松一禱（中1）重松景正（中5）
○当時の生徒 鈴木幸一・中16 中田敬次・中16 小山潔・中17 中村理平・中17 大西礼平・中1920 粕谷衛・中1920 吉田享盛・中1920 亀田幸良・高1 小原博・高2 墨谷元・高2 斉藤茂子・高3 畑谷羊一・高3 田中愛子・高4 納庄隆・高4 平郡修高4 森本栄子・高4 八木一也・高4 吉田昌行 準高4

司会 お忙しいところをお集りいただきまして、ありがとうございます。実は戦中、終戦直後の資料が全くございません。そこで皆様方の在職中、在学中の思い出話をして頂いて、資料とすると言うことで、よろしく願います。

◎先づ服装に関するところあたりから……

馬場 終戦当時は今と大きな違いで、先日高校5年生の写真を見ていましたら、女の子の服装がてんでばらばらですわ。当時は制服がなかったように見えます。本校も戦後は無かったのではないのでしょうか。戦中はどうなっていましたか。黒かと思いますが…。

高3 Nさんの頃（中16）登下校は黒ズボンでしたか。

中16 そうです。上衣は黒のつめ衿で白いカラーつけて。

海老名 戦闘帽みたいなものをかぶっていましたね。

中19 戦闘帽は19年、我々からです。桑の皮で編んだみたいなね。

中16 ドングロスのような黒服とね。

中17 入学した時は黒と霜降で、卒業する時は、戦闘帽ですわ。

中19・20 私の4年生の時20年の10月頃、動員から学校へ帰りまして、はいていたものは雪駄、雪駄といっても竹の皮の下に木がついたようなもんで、服は草で織ったようなもんですし、それも、つぎの当たったので、靴なんかははいて来れないというような状況だったと思います。戦後服装ががっちりするようになったのはいつ頃なんでしょうね。

中19・20 戦後動員から帰って来たら、控室で例の赤靴にはきかえておったのが、そのまま上ようになって、楽やなあと思いましたね。もちろんゲートル巻かなくていいし。

海老名 始めは窮屈だったですね。例えば帽子ね、夏も黒い帽子の上に白いカバーをかけて、汗流してかぶりよったですね。

重松 ゲートル巻かんようになったのはいつ頃からですか。

中17 私らは巻きましたよ。

高2 戦中にはズボンのポケットなんか全部縫わされて、毛糸も着られませんでしたね。

司会 最初からポケットがついてなかったんやないかな。

高松 あれは最初からです。

◎頭髪

高3 髪の毛伸ばすようになったのはSさん（高2）いつ頃やったかいな。ぼくらの頃に伸ばし始めましたね。

高1 毛のこわい子は卒業まで毛がピンと立ってあったん覚えてますがな。組の中で数えるほどでしたわ。

高2 2回生は殆ど伸ばしていましたね、僕は遅くて卒業式の日に立っていましたけど……。

谷沢 1学期中、あるいは12月まで待て、3学期になったら許可しようというようなことでしたね。

◎学校生活（1）

高16 謹慎や停学というのは、いつまでおましたかいな。

高1 それはずっとありましたよ。カンニングしたとか、検番筋を通ったとか。

中15 下駄はいて風呂屋へ行ったりとか、女学校のそば、映画館へ行ったりって。

高3 道で先輩に会うと挙手の「敬礼」と言うのはいつ頃からでしょう。

司会 それはもう昔からで……。ゲートル巻いてま

したね。

中16 敬礼は我々の時もありました。先生に会うと一旦停止して、上級生の時は歩きながらでもよかったです。集団の時は誰かが号令をかけて。

糟谷 学校では禁じったんやけど、生意気や言うて、上級生が下級生をしごくと言うことがあって、タコをツルと言っていました。

司会 場所は校舎の向う側とか。

中16 運動場の端にあったバックネットの裏でね。

司会 こっちは体がこまいでよう呼ばれました。

中15 私は入学して1週間ほどして2年生がえらそうに言ったので2年生をドイツでね。翌日2年生の者に半殺しみたいな目に合わされましたわ。次の日は学校に行く気がせなんだな。

中16 そらえらいこっちやわ。あんた勇気あったんやなあ。

中16 わしらの学年にも落第した者おったなあ。あれ何でやろ。

重松 その辺がね、私ら解らないのですが。

司会 通知簿みたいなものあったんですか。

中16A そらあった。中間と期末考査の点数を足して2で割ってね。勉強はやっぱりきびしかったね。

中16B 総得点が何んぼで、何人中何番で(席次)と書いてありました。

中16A そうしたらぼちぼち親が来まんねん。私ら親子合作で卒業してますねん。

中17A しまいまで100点満点やったか、秀優良不可可やったかな。

中17B そんな時もあった。

中16A あの時は、組分けが成績順でしたな。1番が1組の級長、2・3と行って、4番が3組の副級長と言うような形でしたな。

司会 昔からすな。

中16A 来年度何組になるかは、順位を見て計算したらわかりよった。

中 5 通知簿は郵送やなかったんですか。

司会 昔はもらいよりました。

糟谷 見せん子があるとと言うことで郵送にしたんですが、すると給仕(用務員)を買収して発送の日時をしらべて、家の入口で待っとるんで、同じことやないかと言う話もありましてね。

中16A 今は違うらしいけど、昔は阿呆が補習を受けたね、厳しかったけれど教えてやろうと言う暖か味を感じましたよ。

中16B 私達は、たぶん夏やったと思うんですが、青野ヶ原へ5日間ほど泊りこみで、合同演習に行きま

してね。歩いて行って、海老名先生あれば加古中だけやなしに、他校と合同でしたね。

海老名 学校、学校でやっとなです。

中16 戦死者が出るとるのは我々が終りで17回以降はない。

高 1 戦前戦中には試胆会がありましたね。冬、尾上の墓地まで行ってサインして来る。鶴林寺の駅こえたあたりで知った人に会って自転車に乗せてもろうたんで、知らん間に前の2人を追いこしたらしい。行ったらお前の同級生は何しとんねや言うて上級生にえらいおこられてしもうてね。丁度5年に兄貴がおって、それ言うたらこらえてくれましたけど。それから1回は木村の向うで芋畑荒しに来よるとかち合うてね。どっちもわけわからんと石のぶちけ合いたがな(笑)

◎開戦、終戦

中16 松本校長が急に運動場へ生徒を集めて、アメリカと開戦したと言うことでね。阿呆なりに身の引きしまる思いがしました。

糟谷 あの12月8日ね。校内の放送設備ができてったんですね。教頭さんが今日はラジオのニュース流せと言うことで、放送をかけっぱなしにしたこと覚えてますね。

中15 それより私等にしたら、戦争が始ったら期末試験もう無いぞ言うてね。(笑)

中16A それからしばらくして英語の岩城先生やなんか、予備役の先生が、軍服着て学校へ来ておられましたね。別に訓練もないのにね。大詔奉戴日いうんでしたかね。あの日は。

重松 当時弁当に梅干入れていたね。「日の丸弁当」と言うて軍に協力する。非常時と言う気持の表れで

中16A 他に入れるものもなかったしね(笑)

糟谷 昼食の時間は主任が弁当を見て廻れと言うことでね。

中16 弁当のふたに穴があいてね。お茶を入れられへん。

穴田 空襲の時はどうしよったんです。授業中……。

中15 私らはおまへんでした。

高 1 空襲のある時はもう学校に来てませんでしたな。工場へ行ってました。

高 2 空襲警報が発令されたら「タコツボ」と言う小さな穴に入って首だけ出して、空をみていたように思います。校舎からはなれて。尾上の飛行場へ行ってた頃は高射機関銃で応戦しました。機銃掃射を受けたこともありました。この時は生きた心地はしませんでした。机の下へかがみ込んだように思って

います。

中17 夕方になったら事務の先生が当番で警備に来よりました。銃剣持ったりして。

重松 動員というのは一べん学校へ来てから工場へ行くのですか。

中17 いや、直接行くんです。

重松 そうやったら、単位なんかは……？

中17 1年中ずっと行ってましたよ。

中16 戦争になったら英語やなんぞせんでもええか思ひよったら、そうも行かないですね。

中17 やっぱり授業料払いよったんやろ。

中16A そらそうや(笑)

高3 3円50銭やったやろ。

中17 年数が来たら卒業させてくれよったんやろ。

重松 工場へ行ったら学校へ来たことになって、卒業できたんですか。

中17 海老名先生なんかが見廻りに来てあって一生懸命仕事せんと軍隊に入って何時迄経っても二等兵やぞ、靴みがきやぞ言うてね。その方が成績よりこわかった。

中19・20 三木へ1週間行きました。小野中のすぐあとで、小野中に負けるないうて頑張ったもんで非常にほめてもらって帰ったんですが、それから工場行きですわ。

中17 通用門のそばに柱を立てて、チャーテルヤルーズベルトの顔(面)つけて、私ら帰る時三遍づつ木銃で突いて帰らされよった。

司会 動員の間下級生はどないしよったんですか。

高3 僕ら20年に入った時1~2年は居残って、控所——体育館に旋盤置いてやり出しましたね。

高1 それが僕等の時ですわ、20年3月頃に……あああれ組立てですわ。送信機か何かの。当時海外放送を聞いたらいかん言うてね、僕は情報班におりました、聞くたびに言うてまわる役でした。

高3 2年生が作業しよる間1年生はずっと授業や。

高1 あれは午前中やなかったかな。

司会 運動場はどうでした。

高1 トラックはそのまゝありました。

磯部 僕は18年8月帰って来ました。その秋に片山視学官が、ここは何も植えてないやないか、非常時を知らんのか、言うわけでね。今英語の先生いらんから作業やれ言うんで、生徒を使って運動場掘って、18年の秋からですわ、私は炭炭のコーチも受けたんですよ。窯を基いて惜しいけど桜の木切って、ここだけでも言うて残したのが今残っている旧講堂横の分ですわ、もう英語は敵性語や言うて、ソラ勤労働員や何や言うたら英語の先生で……。

井置 私が来た時も磯部先生は農業の先生かいなと思いうていました。(笑)

中19 動員もね、中学校は最後までおいてくれたんです。商業・工業学校は早かったです。

海老名 私がこの学校へ来て感心したのは、軍隊では上官からあまり鉄拳を加えてはならんということもあつたんですが、この学校では反対に激しく先生からやられているのを見て感心しましたね。

中16 ここですやうなぐられてるので、軍隊で撲られてもこたえへん。(笑)

海老名 戦争中のことで記憶に残っているのは、当時進学する組としない組とに分れていて、進学しない生徒が慰問文をよくくれました。戦後教育に大きな欠点があることを思うとき、やはり世の中の事を考えねばいかん。人間を作るための教育をしなければならぬと思います。

司会 学校で戦陣訓みたいなもの読みよったんですか。

中16 私らの時はなかったね。

中19 私らの時は暗唱させられました。軍人勸諭でしたかね。戦陣訓はあとからです。

司会 朝礼に読むと言うような事は。

中19 それはなかった。教練の時間ですわ。

高2 上級生にも言わされて、よう言わなかって撲られた人もいたようです。

○勤勞奉仕・動員

中16 農繁期の稲刈りなどに行きましたね。学友団毎に分れて。赤と白の旗をてて出征兵士の家へ行きましたね。

中15 その旗がね、女学校と赤白上下が逆なだけなんですわ。わざと反対につけますと先生が見まわりに来ませんので、その間によさボリましたかな。そのサボリの大将が陸士へ行ってえらい人になってでしたかな。

高1 稲刈りの時よう悪いことも先輩が教えよりましたで。

中17 夏休みは尾上の飛行場の草刈り、赤トンボの掩蔽土手づくりに行きましたわ。勉強せんならんと思つた時は動員で、私ら東亜金属で飛行機の部品こしらえました。

中16 尾上でね、昼ごはんの時は、扇風機代わりに言うて、九式の戦闘機のプロペラをまわしてくれてね

高1 僕ら三木の飛行場に行きました。

中16 飛行機かくすのはおかしな話や思つてました。

中15 空襲警報が鳴ったら、上に居た飛行機が降りて来よった。

高2 僕らが行った頃は用を為さんのを隠して、数少いやつだけ飛んでいました。

中16 訓練用の飛行機など、指で突いたら穴があきよった。

高2 破れた翼を糸と針で縫っていましたよ。

馬場 動員がありましたかどのあたりへ行かれましたか。

海老名 動員は、姫路の機関区、土山の東亜金属。

中17 旭ガラスも行きましたね。卒業は昭和20年、16回の人は動員に行っていない、17回からです。17回は4年生までしか学校へ来てない。昭和19年5年生の時動員です。

中16 戦死者が出とるのは17回が終りです。

中19 17回の動員はすると？

中17 中学5年の時1年間だけです。

中19 そうするとわれわれが一番長かったことになるかな。

井置 私が参りましたのが昭和19年4月。最初が三木の飛行場。それから加古川の河原へ「ハトムギ」を植えるんだと言うことで、あれは確か古新にね、全校生徒行ったんじゃないかと思うんですが、それができたんやら、できなんだんやら……。

磯部 結局できなんだ。

高1 2つに分れてもう一方は、上荘村の粟栗の河原へ行きました。

井置 18回ですから糟谷・石田先生もおられたと思いますが堀先生が学年主任で、最初1組が荒井のキッカーマン、私の持っていました2組が多木製肥所3組が当時の日鉄炉材、一か月おくれて4組が日本造機へ。ゆく前に製肥所などかなわんぞと言うことでした。なるほどキッカーマンには大豆がいくらかもありまして、腹痛を起した者もありましたが、しまいには見るのもいやだと言うことになりました。その点製肥所はセンペイを配給してくれるとか、ジャガイモをくれるとか、温情味ある取り扱いでした。入所式をしてきてご馳走が出ましてね。時には配属将校が回って見て帰りました。

中20 その時には必ず昼食時に五ヶ条の御誓文をね。耐火煉瓦とキッカーマンは扉一つの隣り合わせなんで、昼の時間その声が聞えると、こら配属将校が来ると、明日はこっちやいうわけね。

あの頃は三木のあたりからも生徒が来ておりましたが7時にはちゃんと荒井の工場に入っていましたね。それからNさんの学年でしたね。粕谷君が旋盤で頭打って……。

高3 それで朝会で黙禱しましたね。

中20 それから学校葬をしました。その日だけ工場を

休んで。

中17 上にあがって旋盤のベルトにワックスを塗りよって、巻き込まれ下へたきつつけられたんです。私等は修学旅行も行かなかったし、アルバムもない。18回の人は私らと一緒に動員に行つて4年で卒業してますから3年しか学校へ行っていない。

司会 動員、動員ですから運動会というようなものはなかったんですか。

中17 動員中は毎日会社でしたね。

司会 その直前の頃は？

中16 16回生は運動会も修学旅行もありました。当時は東京へ行つておりました。先輩が宿舎へよう来てくれてね。16回と17回では大きな違いですね。

重松 夏休みはどうでしたか。

中20 休みなしでずっと工場へ行くんです。それで給料もらうんです。月50円、25円だけでもらいよったね

中17 あと半分は弁当代やいうてとられましたよ。

中20 弁当やおまへん、パンです、コッペパン。

中16 運動会が11月3日というのは昔からですか。

重松 私らの頃は11月3日やったね。

中16 運動会の最中に陸士の発表がありましたね。途中でアナウンスがあつて、胴上げをしておりましたね。

○学校生活(2)

中19・20 戦争中は先生が少なかったですね。井置先生の来られる前の数学なんか。英語や漢文の先生はあつたんですか。

糟谷 理科の先生がないので東京高師の古い卒業生の中谷先生が来られて、その息子さんが校長になっている人やからおじいさんで。冬は冷えるんやね。それで昔「御飯ぬくめ」がありましたね、その中へ灰を入れて、炭火を入れて物理教室へ持って行きよったんです。授業がすんだら又持って帰りよつて。教頭が糟谷君教室見て来てくれ、ゴソゴソする奴はコツツとやってくれ言うんですが皆だまって聞いとる手あぶりながらの授業やけど、生徒にはわかるんやね、やっぱり授業がうまい。何んのかんの言うてもきちんとやったら生徒は黙つて聞くやないかと言うて職員室で話しましたが。化学の先生は薬剤師やったね。赤松と言うて酒屋の。理科の先生はそんなでした。

中19・20 松本校長のあとが青山校長でしたね。あの方に授業してもらいました。それから村上先生でした。

村上 あないにはげた人教えたかいな(笑)

中19・20 卒業式の時わしが5年生の頃、お前ら1年生

やったんやな。尺八吹いたるわいうてね。

○敗戦処理

磯部 敗戦の時にね、学校には銃が沢山あったでしょう。あれをどうするかと言うことで、畑へ埋めたんですが、バレンのように言うて夜中に僕の宿直の晩にやろうと言うことになりまして、道の向うに畑があったでしょう。昼間生徒に防空壕やいうて掘らして3-8式の銃から背囊から小使いさんに車ひかせて、海老名先生と僕と校長さんと一所懸命かくしたことを覚えていますかね。

高 3 今掘ったら出てくるんちがうかいな。

磯部 電々公社建てる時出て来たいうて新聞に出ってたでしょうが。

中16 実弾もちょっとおましたやろ、なかったんですか。

磯部 模擬弾だけやったです。

高 3 それからしばらくして進駐軍が来て望月先生が英語でしゃべりよってあった。あれ刀探しに来るとるんやいうてね。

中19・20 通訳つれて松本校長と一緒に銃器庫へ入ったが無いもんやから生徒を証人に引張り出してどうしたと言っ……。

海老名 全部返上したいいましてね。ところがどこへ返上したかいうことで。

中19・20 私らも全部返上したと答えました。

中16 わしら兵隊に行った時鉄砲ないいうて困りよったのになあ。

磯部 相当ありましたよ。

高 1 僕ら銃砲全然知りませんがな、 工作の時間に木銃作ってね。

村上 鉄砲持つのは3年生からやったね。

○学習

中19・20 私ら磯部先生に英作教えてもろうたんです。暗唱して来いと言うことで、して来んだらお前ら勉強するために学校に残しといてやっとなるのいうて連帯責任で50人順番に竹刀でやられました(笑)

磯部 先生すみません。今では楽しい思い出ですわ。
磯部 いやいや、今は竹刀がないので出席簿でやりよるねん。

中16 一寸お聞きしますけど、昔私らたたいた時分と戦後の生徒とどちらが教えやすいおますか。

井置 それは戦前でしょね。

中16 私らの時代はまだ三尺下って師の影を踏まずと言うようなことがまだ生きていたと思うんです。先生にムチでたたかれても反抗するということはなかつ

た。

中16 N君らイネいうたらじき、いんでしまいよった。(笑)次からもう先生はイネ言わんようになってしまいよった(笑)

井置 戦前の生徒は素直だったですわ。

磯部 今は初めに約束しとくんです、お前らサボったらどつくぞいうてね。

中16 いわゆる授業受ける態度、意欲的なものは今はあるようですけども、その変化はどうでしょう。

谷沢 交流で女子が入ってくるとやっぱりちがいましたね。4回の生徒までは相当たたきましたよ、女の場合はやりませんでした。5回以後は大大変わりました。男女ミックスにも馴れて、それだけおとなしくなりましたかね。

馬場 やはり5回生とちがいますか、新制中学校から入って来たいうのは大きな変わりようですわ、当時私は明石で2、3、4回生と教えておりましたかね。

中16 すると今ここにられる方はまだ昔のご婦人のええとこを……(笑)

磯部・村上 4回と5回との差はあるね、4回はヤンチャやった。

磯部 スケールが大きかったとも言えるけれども。

谷沢 2回あたりは自分でトコトコ調べておいて、先生をいじめてやろうと言う気持ちもってましたわね。そういうところに先生と生徒とのつながりもあった

高 1 あの年若い先生が沢山入って来られましたね。

谷沢 そうですね、吉田先生とかね。あのあたりの先生方ずい分いたずらされてますよ、〇〇君なんかよう知るとる筈や。

司会 その当時、小学校では教科書にスミをぬりましたね。高校ではどうでした。

高 3 やりました。その後の教科書は新聞みたいなもので。

高 4 それを切りなさい、いうてね。

高 2 綴じて切るんです。

高 1 そんな時があったね。

馬場 あれは県から言うて来ました。何行目から何行目まで消せいうてね。

○男女交流

司会 戦後の話題をちょっと。交流の話など。

井置 あれは事前に女学校(西校)の先生と打合わせしまして、女学校の家庭科室で2回ほどまあ一杯やって、くじ引きにしようやないかいうことで生徒を控室に集めて、ジャンケンをやらせました。

磯部 成績順に並べてやりましたね。今やったら文句出るけどね。

村上 2重の抽籤したように思いますね。AとBにわけた上で、代表者がでて札を引く、それに東西が書いてあって。東の札を引くとえらい拍手で、たしか大差で東西がきまったように思います。先生方も、各科でまた年令別にくじを引いて、私らそれ以来今だにこないしとるんですけど。

井置 女子が40人ほど(学年で)来ましたか、とにかく便所がない。女子は何かおそろしいいうて、泣きの涙で来たらしい。半年ほどの間にこちらがよくなって、卒業する頃にはよかったと言っていました。中学の方はとにかく珍らしいと言うことで。

司会 Kさんは向うへ行かれました？

高1 僕は中学、高校両方の卒業証書があるんです。中学卒業の時、高校進学希望者を募ったわけです。一級上まで3クラスだったのが、僕らは200人になっていましたが、その半分が中学だけ出て、残る2クラスが文と理に別れて高校の3年に編入したんです。だから女生徒は受け入れていない。

谷沢 2回はそのままですね。24年の7月1日10時を期して両校を出発したんです。雨の降る日でした。今までいろいろお世話になった先生方が向こうへ行かれたということもあって淋しい思いもしました。そこへ井置先生も言われたように女生徒が泣きながら入って来て、われわれ心外に思いました。男女の歯車がうまく噛み合うようになるには半年位かかりましたか。

井置 西へ行った生徒がこちらへ遊びに来てましたね

司会 高3の方も別れて西へ行かれたのですか。

高3 そうです。僕はこっちに残った方です。女の子が入って来て千鳥型に座らされたんです。男はおとなしいものですわ(笑)大きなオバハンが来た思うてね。昼休みは男は皆運動場へ出て立ち食いですわ、教室はみな女の子で、そらはずかしいて、はずかしいて(笑)。

村上 生徒もはずかしいか知らんけど、私もあれ23-24の紅顔の美少年？やったさかい、先生のし始めは男ばかりやったのが、千鳥型に座るとるでしょう。授業でけんわけです。前向かれへんで(笑)、今も口は荒っぽい方ですけど、一寸上品な言葉を使おうと思うたら言葉が出て来ん。(笑)

中19 運動会見に来したらね、4年生ですか、2年生がフォークダンスやるんですが、てれてしまって手を組まないんです。見てる人がキャッキョ笑うてね。

高3 あれは谷沢先生の発案ですか(笑)、女の子に紙フラワーつけてもらいまして。

谷沢 そうですね、あれも歴史的な事になりました

な。あれはなるべく早く男女うまくゆくようにと言うような気持もありまして、何か男女が一緒にやれることを言うんで加納という女の先生と始めたんですが。あの年1回生は男子だけで2回の女子を可愛いがっておったものですけどね。女子もよく協力して体育会なんか殆ど生徒の手で考えて行ったと思うんです。そういうことで親密さが増えたように思います。

高4 私らは女学校に入ってくじ引きでは西へ残ったのですが、学区制で高校はこちらへ入ったんです。

谷沢 4回の際は人数が多くなったね。

高4 女学校に行かなかった人、新制中学校の人が自動的にワット来た。そして人数が増えてね。

磯部 あの時分、西高は張り切った。いい成績だったですよ。東大にも行ったりして。東もやらないかんいうて、能力別にわけたのはその辺からですかね。思い切ってやろうやないかと。

村上 先生はその時の学年主任でした。

磯部 そうやないと勝手はないいうてね。

谷沢 一つ特に全校生徒を集めて話をした記憶があります。今ここに西校へ行かれた先生が居られませんので何ですけれども、当時、中学の立派な先生は皆西校へ行かれた。私に残ったのはカスばかりだという話が町に流れました。それが私らに意地でもという感じを起させたし、女学校から来られた先生方ともシックリ行くようにさせた。こうして同じ地に2つの高校が生れたからには必ず比較される。比較されて恥ずかしくないだけにやろうやないかと生徒の前で言ったのを覚えています。

○文化祭

村上 文化祭に、女の子が入って来た頃入場料のようなものを取ったことがありますね。磯部先生のお嬢さんのおられた時ですが、宝塚から衣裳借りて来て金がないというので、その頃「千姫」という映画が来ておって、東高の劇の方がええいうて、あれが文化祭の始めやないかしらん。

高1 始めですね。その代りいうて僕ら修学旅行に行かなんだですわ。

司会 劇の他展示もありましたか。

高1 そう、ありました。

村上 午前と午後入れかえてね。講堂は満員でした。

高2 私らの学年は文化祭もありましたし、修学旅行もありました。北九州へ行きました。

文化祭の準備など泊り込みでやりました。今から考えると隔世の感があります。しおりを作って売ったり、心理検査などして検査料をとったりしていまし

た。

○修学旅行

高 2 仲のいいペアがありましてね、九州へ行くのに汽車だどこで降りてしまうかわからん、で神戸から船に乗せて、別府で地獄めぐりだけして翌日又船に乗せて帰って来ました。九州の土地へ上っただけですわ。(笑)

井置 船の中でずい分喧嘩したということ聞いとるんやけど。

谷沢 ええありましたよ。私は留めに行けといわれてね。2回はヤンチャ坊主が多かったが、こちらが悪いわけではないから私は留めなかった。

中19・20 旅行していないと言えば……。

中19・20 17回からやってないやろ。

重松 当時はルーズというか、ある学校では何人かのグループが先生と一緒に酒を飲んだ。そして懇親の意味や言うて誰も処罰されなかった。こちらは1人停学になったそうですね。

○校章

井置 現在女生徒が、K・Hと言うマークをつけていますが、あれはたしか清水校長時代、女生徒が東やら西やらわからんということで校長が案をつくられたと思うんです。それから校章はたしか……。

高 3 あれは一般に募集して、金一封300円か500円出るいうんで、僕も似たようなもん考えとったら 2回の方が当選したいうて小使室の所へ張り出された。

谷沢 2つ残ってね。どっちにしようところで……。

司会 僕ん所へ走って来た。

谷沢 ほんとに新制中学出た生徒が入って来たのは 5回からですね。その時に、女生徒にはK・H男子には「東」をつけるということで、私その時生徒指導部長していて、いろいろ相談した事覚えています。

○スポーツ

重松 野球のことで一寸聞きたいんですが、私の弟が高2回で、私が軍隊から帰った時2年生で下手くそでしたね。境内でピッチングさせたりしましたが、戦時中学校では野球出来なんんだのか、いつ頃始まったものか……。

中17 私ら体操の時間には鉄棒、跳び箱など器械体操駆足。教練の時間が多くてね、体操の時間には敵国のスポーツはやたらいかんと言ふことでボールを使うものはやりませんでした。まあ放課後はテニスやったり、好きで野球やったりする人はありましたかね。

司会 しかし、ストライクと言う言葉はいかんいうて「よし」とか「だめ」とか審判が言いよった記憶があるけどね。

村上 私らの時にはまだありましてね、全国中学野球大会ですか、今の別当のいた甲陽、あれと試合し5回コールドゲームで負けたことがあったように思います。

中19・20 戦後私らやりましたよ、野球部もできました。

高 4 私が21年ここへ入った時には野球部があって、西山君、あの人がデッド・ボールで出たのが唯一の出塁と言うような試合があったですがね。

中19・20 そうやね、そのあたりから道具を寄付してもらってやっておった。三宮の闇市へボールを買いに行つて。

重松 弟がね、ボールを100個も200個も糸の切れたのを持って帰り縫うてました。しまいには上手になつてね。

中16 中15回ぐらいが最後とちがいますか、16回はテニスなんかはやってましたが、野球はなかったですな。

中19・20 21年には県の予選には出ているようですね、その時の全国優勝が平古場の浪商で。梶原いう先生がボール買つて来い言うて10円札をトランクみたいなものに入れて渡しておられたのを覚えてます。戦後すぐスポーツは復活しましたね。進駐軍の関係とちがいますか。

糟谷 21年の8月には朝日新聞社が全国大会をやります。

中19・20 ソフトボールのノックバットが進駐軍から来たと言ふことを聞きましたよ。塩見先生がこんなものもらったらあとの維持が困ったもんや言うてあったん覚えてますわ。

高 2 体育の中間テストの実技にキャッチボールがありました。柔道や剣道はいけないと言ふことで柔道の宮川先生が体育の先生をしておられた。

高 4 21年3月の入学試験に、ソフトボールのキャッチボールがありました。

中16 体力検定いうのがあったのは何時頃から何時頃までですかね。

司会 あれは昔からです。私もまだメダルがあります

中16 手榴弾もあった。俵をかついて走るのと懸垂と100m、50m走もありました。

司会 腕立て伏せ10回とか。

中19・20 1・2年生の水泳は昔からあったんですか。

谷沢 ありました。最初は橋の下(加古川大橋)でやりましたね。6尺の白いさらしのふんどしで

中16 水泳部がやりましたね。皆が行く時にもついてね。

村上 ずっと海へ行ってあって、私らが4年生の時分から川へ行くようになった。私は水泳部にいましたが、1・2年生の時は別府だったように思います。

中16 高砂から別府まで遠泳しよったな。

中17 戦前はやはり柔・剣道が強かったのが印象に残っていますね。丁度好崎先生や高松（清）先生がおられた頃（13年）県下でも、準決勝まで行きよった戦後は野球ですか。

中19・20 戦後は柔・剣道が禁止されていて、相撲が復活した。私の組の三木、宮脇、県で優勝しましたね団体戦の戦績もよかった。それから東の相撲は伝統があると言うことになった。現在はどんなもんですか……。

重松 O・B会を結成しましてね、今年も近畿大会まで行きました。

司会 お忙しい中大変長時間にわたりまして貴重な体験なり思い出をお聞かせいただき有難うございました。話もまだ尽きないと思いますが、この辺で。

そのⅢ

クラブの歩み

射撃部

- 11.10.17 姫高主催第5回県下中等学校射撃大会。
優勝（原・渋谷・井沢・野村・工藤・北原・梶原）187点、2位神戸—中との差21点。
- 12.11.7 姫高主催射撃大会優勝。

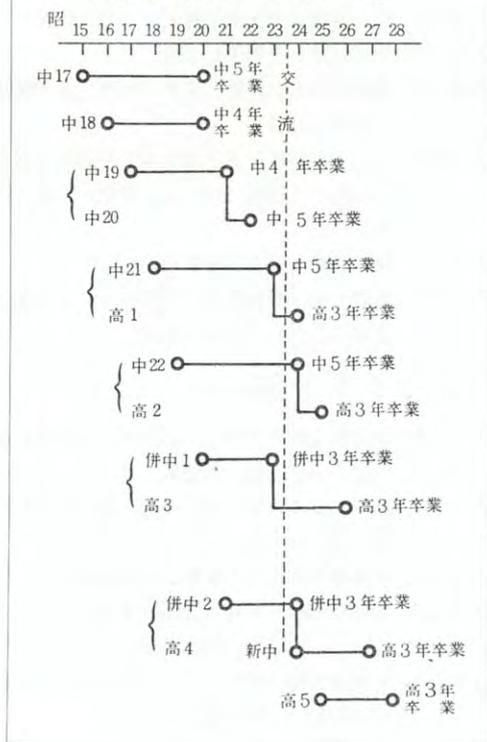
剣道部

- 8.9.24 姫高主催近府県中等学校剣道大会
準優勝（高谷・井沢・浅田・藤原・松野）
個人優勝（松野）
二部優勝（2・3年）（北村・平沙・宇高・福田・中村）
- 9. 県体育協会主催西部中等学校剣道大会（於本校）（高谷・井沢・神田・長谷川・玉垣・木村）
- 12.6.20 県下中等学校西部剣道大会（於小野中）（山下・下司・魚住・高島・黒田・大宅・三浦）全国大会に出場。
- 29 東播秋季大会優勝個人2年（山田）

柔道部

- 8.6.11 姫高主催近府県中等学校柔道大会。
準優勝（藤原・花川・原・中野・黒田）
- 8.9.23 御影師範柔道会主催全国中学校柔道団体優勝大会優勝。
- 8.9.24 天理外語主催全国中等学校柔道大会準優勝
- 8. 県体育協会主催武道大会、二部優勝（2・3年）
- 11.11.15 大日本武徳会兵庫県支部主催県下中等学校柔道優勝大会準優勝（岡田・福本・北谷・塩谷・赤松）実際は勝点をあげながら、代表戦にもちこまれ敗る。
- 12.6.27 県下第4回男子中等学校柔道大会優勝（岡田・赤松・西本・塩谷・池沢・前田）全勝優勝であった。全国大会に出場。
- 13.5.15 県主催西部中等学校柔道優勝大会優勝（塩谷・松浦・金近・平本・森本）
- 13.7.27 武徳会本部主催全国中等学校柔道優勝大会（参加校400余）第4回戦広島市商に敗る。
- 27.8.10 国体予選近畿大会東播予選、団体優勝、個人入選8名、県予選2回戦、個人（荻）国体

激動期入学卒業一覧



出場。

- 27.10.19 東播秋季大会優勝、団体、個人全学年。
- 28.10.18 東播秋季大会優勝、団体、個人3年2年。
- 29. 9.12 東播大会優勝、近畿兵庫大会へ、個人2年（中島）県大会へ。
- 29 東播秋季大会優勝、個人1年（森田）

山 岳 部

- 23. 3 部創設、大山に登る。
- 23. 8. 4 6日にかけて槍岳踏破。

相 撲 部

- 23. 9.19 県大会、準々決勝に進出（明石公園）
- 23.10.17 県代表に選抜される（西沢・岡田・横山）
- 27. 8.16 県代表として青森大会出場。
- 27. 9. 7 全国兼近畿兼兵庫県予選（於明石）優勝（大村・小南・寺本）
- 27.10.19 東播秋季大会優勝、団体、個人（小南）。
- 28.10.18 東播秋季大会、個人1年1位（亀原）
- 29. 9.12 全日本高校選手権・近畿選手権県予選5位
- 29 東播秋季大会優勝、団体、個人2年（宮本）
- 31. 7.29 西日本大会出場（県大会に優勝して）
- 44 全国大会（於金沢）出場

庭 球 部

- 11. 6.21 伊勢神宮奉納庭球大会兵庫予選（於神戸市民コート）準優勝（栗林・西岡）
- 11. 8. 4 同上全国大会2回戦敗る。
同大会府県対抗は3回戦まで。
- 11. 9.13 県下男子中等学校庭球大会西部予選（於本校）優勝
- 11.10. 4 県下男子中等学校秋季庭球大会（於神戸市民コート）優勝（達谷松本・内海斉藤・山口妻鹿・森小山・栗林西岡）全勝だった。
- 11.10.25 みなとの祭庭球大会（於神戸市民コート）準優勝（栗林・西岡）
- 12 みなとの祭庭球大会準優勝（栗林・西岡）
第9回明治神宮体育大会に県代表として出場
- 12.11.14 県下中等学校秋季庭球大会（於県工）
三位 灘中・加古中・第三神港が同点、リーグ戦は各1勝1敗、総得点により順位決定第3位となる。
- 23. 7.31 近畿二府四県選手権大会（於樞原）3回戦（長谷川・山田）
- 22. 8. 8 西日本選手権大会（於中モズ）5回戦準々

決勝（長谷川・山田）

- 23. 8.25 全日本選手権大会（於中モズ）5回戦（長谷川・山田）女子3回戦（田中・水田）
- 23. 9. 5 国体東播地区予選（於本校）優勝（長谷川・山田）女子優勝（田中・水田）
- 23.10.29 第3回国体秋季大会第3位（長谷川・山田）大将組として出場、県より敢闘賞を受けた。
- 23.11.21 軟庭県下選手権大会（於松蔭）優勝（長谷川・山田）第3位（住友・高田）
- 24. 5. 3 県男女高校軟庭大会東播予選（於東西両高）優勝（山田・長谷川）
- 24. 5. 8 県A軟庭優勝大会（於神戸高）2回戦（長谷川・山田）
- 24.11.23 県高校男女軟庭選手権大会東播予選、中央出場4組を独占（山田高田・亀岡坂田・石田矢作・平野小西）女子（田中奥村・森田中川）
- 26 近畿高校総合体育大会第3位（亀岡・前田）
- 27. 7.28 西日本軟式庭球選手権大会（於宇治山田）4回戦（岡田・日坂）女子3回戦（菱垣・西村）
- 27. 8.16 全日本軟式庭球選手権大会（於日比谷）
- 27.10.19 東播秋季大会男子1・2位
- 28.10.18 東播秋季大会優勝（富永・山田）女子優勝（田中・近藤）
- 29. 5.23 全日本高校庭球選手権県大会3回戦（富永・山田）1回戦（佐々木・井上）女子2回戦。
- 29 東播秋季大会女子優勝
- 36. 4.30 近畿大会（於和歌山）県代表として出場（連続2年目）（山本・森組）

バドミントン部

- 27. 8. 8 全日本高校バドミントン大会（於高松）県代表として出場、2回戦。
- 27. 8 県民バドミントン新人大会、複、2年1・2位 単、1・2位。
- 27.10.19 東播秋季体育大会優勝、単（海老名）
- 28.10.22 第8回国体女子複（芝本）参加。
- 30. 6.19 全国大会県予選、団体2位。
- 30.10. 1 近畿高校総合体育大会（6府県18校）優勝3-2親和（主将十倉）

陸上競技部

- 23.10.29 福岡国体 女子400m継走、第1予選（水野）

- 23.11.21 東播大会優勝1.500m(原田) 200m・走高
・三段(坊伝) 円盤(渡辺) 槍(比野) 80
0m 継(坊伝・松原・大西・藤本)
- 24.10.23 県高校ジュニア陸上競技対校選手権大会(於明石) 棒高5位、走幅4位、200m3位(伊藤) 400m 継6位。
26. 9.20 県記録会(於明石)、走幅優勝(渡辺)、400m 優勝(石田) 円盤2位(大西) ハンマー3位(渋谷) 女子円盤3位(三俣) 女子走高3位(大中)、代上近畿総合体育大会に出場、その結果、円盤2位(大西・兵庫新35m22) 1,600m 継3位、400m 4位(石田) 走幅4位(渡辺)
29. 5.22 県高校春季陸上大会(於明石)、棒高2位(花房)
29. 7.31 花房 6・26近畿高校選手権大会(於中モズ) で5位となり全国大会(於熊本) に出場
- 30 県ジュニア大会 400m 優勝(上田・大会新50秒0)



卓球部

- 23.10.29 福岡国体、女子卓球一般、3回戦(田中)
- 23.11. 7 県下硬式卓球優勝大会、準優勝(中島)
- 23.11.14 全日本卓球大会一般女子県予選(於関学) 3位(田中・若柳)、全国大会(横浜)へ
- 23.11.21 東播大会男子優勝。
24. 5.15 全日本選手権県予選1回戦。
27. 8.31 県大会ベスト16(2名)
- 28.10.18 東播秋季大会女子優勝。
29. 9.29 ジュニア大会東播予選、ダブルス優勝(池田・上住)
- 28.10.22 第8回国体女子個人(沢) 参加。

野球部

- 29 秋 東播優勝。
29. 9. 4 第2回県秋季大会(於生野) 優勝(3-0滝川)

29. 9.23 第3回県高校優秀選手選別野球大会(於神戸市民) 優秀5選手(高田投手) 優秀62選手(松沢捕手・永田外野手)
- 44 2年中野、沖繩派遣選手にえらばれる。

籠球部

- 27 国体予選大会東播 優勝
- 27.10.19 東播秋季大会 優勝 男・女
- 28.10.18 東播秋季大会 優勝 男・女
- 29 東播秋季大会 優勝 男
29. 9.12 東播大会 決勝リーグ2勝1敗、兵庫大会へ

排球部

- 27.10.19 東播秋季大会 優勝 女子
- 28.10.18 東播秋季大会 優勝 女子
- 29 東播秋季大会 優勝 女子

ソフト・ボール部

26. 8.28 国体予選兵庫大会準優勝。
近畿予選(於藤井等) に出場。
29. 9.22 東播リーグ戦 優勝。

文化部

23. 9.19 地歴考古学部、志方宮山古墳発掘、祝部式土器らしきもの、平盤、びん、壺等を発見
- 29 県下学校新聞制作コンクール3位。
30. 1 関西学生放送劇コンクール 4位入賞「日記抄」9.25NHKより放送、つづいてベスト4、努力賞「宿根草」31年放送。
- 31 同上ベスト4「母子家族」
- 34.10 立正大学主催第7回全国高校書道展、銀賞(松原) 以下3名全員入賞。
- 34.11 三楽書道会主催全日本学生書道展、特選(石原) 以下8名入選。
- 35.10.28 立正大学主催第8回全国高校書道展、郵政大臣賞(松原) 佳作2名。
- 35.11. 1 三楽書道会主催全日本書道展、特選(市位) 以下金賞2、銀賞2、銅賞3。
- 35.12. 4 演劇部県高校中央合同発表会(優秀1、優良2のうち) 優良校「女囚の便り」
- 38.11. 1 三楽書道会賞(石野) 特選(石見・中川) 金賞4、銀賞4。

通信教育の沿革

昭和23年

2. 15 本校に文部省認可通信教育部併設
亀岡寛治校長（兼任）
宮川徳一郎長（専任）発令
3. 1 田中万年教諭（専任）高島安治事務官（同）
金川信子雇員（後専任実習助手）発令。
3. 5 通信教育部独立職員室72㎡本館二階に設置。
3. 27 第1回通信教育生入学式。
募集人員 200名（豊岡高校100名）
応募者 620名（血書嘆願4名を含む）
入学許可 218名（中学部を含む）
教科書・指導書なく当分の間連絡事務とガリ
版指導。
7. 7 機関誌「むつみ」創刊号発送。
9. 1 講師（全日制教諭中から）8名発令。
9. 19 第1回生徒大会開催。
出席者（全県下）191名欠席者27名。
開講—教科書配布と添削指導の指示。
高校部、国語・解折(1)・地学・人文地理。
中学部、国語・数学・理科・職業指導。
学友会—「むつみ会」結成。
会則決定・支部会の結成・役員選出。
10. 10 第1回レポート返送（添削済み）
11. 21 文部省社会教育局福原企画課長の招請で宮川
部長急拠京都府立朱雀高校で面接詳細打合せ
12. 26 第1回期末実力考査実施。

昭和24年

1. 25 「むつみ」誌第5号を特集号として発行。
本号から本印刷版となる。
5. 28 学友会役員会開催——座談会。
県官——沖指導課長・樋口・上田両主事、
松永秘書課長列席助言。
6. 16 英語講習会を学友会主催で举行。
6. 24 「むつみ」誌第10号発刊。支部会活動ようや
く盛んとなる。
9. 15 現状
①職員組織 校長（兼）1、部長（専）1、講
師（兼）12、事務職員（専）（実習助手と
も）3、雇員1、計18。
②実施科目と認可単位数
高校部 4科目、計24単位。
中学部 4科目、高校受験資格を目標。
③生徒数 定員900名、在籍920名

実人員568名——中93名、高475名。

10. 1 ①出張指導の計画地区別実施の開始。
②地区別委託考査の開始。
この間、文部省社会教育局福原義人課長、同
会計検査局金沢薫事務局長、各個別に來校視
察さる。なお、この年の末頃から認可単位と
卒業資格の関係で通信教育の管轄が社会教育
局から学校教育局に移管された。

昭和25年

1. 8 第3期入学式举行。県教委から恩賀指導部長
列席訓辞を受く。
1. 20 文部省大久保事務官、県教委芝田主事視察。
1. 25 文部省初中局へ定通連携の請願書提出。
2. 24 定通連携具体案を県教委へ提出陳情。
3. 4 日曜高校（定通連携特別学校）仮称の細案を
亀岡校長に随伴して宮川部長と2人上県陳情
する。
3. 10 文部省野中事務官、県教委吉岡指導主事帯同
來校視察。
4. 11 県監査委員（大崎・大坪・三木・中井4氏）
來校時に日曜高校の主旨詳細に陳情。
5. 1 ①通信教育認可単位数24から28となる。
②実施可能科目9科自46から50単位となる。
6. 7 文部省初等中学教育課長から返信あり、大い
に激励さる。
6. 21 定時制主事会（姫路東高で開催）に押かけ参
加して（校長・部長・事務長・生徒会長の4
名）定時制と通信教育の不離一体を説き、定
通連携の必要性を大いに主張する。
7. 30 定通連携特別学級（本校独特の考案）の計画
と実施の最終案を県教委へ提出する。
8. 1 通信生の定時制で併習する場合、その一部科
目の授講料を単位制で徴収することについて
（かねてから陳情中のもの）認可さる。
9. 1 宮川部長、文部省主催の第4回教育指導者講
習会（I F E L）通信教育受講の命により東
京お茶の水大学の長期講習会に参加する。
11. 9 現状
①職員組織、校長（兼）1、部長（専）1、教
諭（専）5、事務職員（実習助手を含む）6、
雇員（兼）1、講師（全日制教諭の中から）
18、計32名。
②生徒数定員900名、在籍1,005名

(勉学続行中の)実人員 531名
 男女別 男 459名 女 72名
 年令別 31才以上17名 } 計22名
 40才以上 5名 }
 平均年令21.2才。

③特定事項

- イ、入学時は学年別とし、入学後はコース制を採る。
- ロ、入学は随時、卒業は 3月と9月の2回。
- ハ、1人同時履習科目は4科目以内とする。

昭和26年

- 3. 1 第1回卒業式5名、平均年令 28.2才。
- 4. 1 清水敬治校長着任、亀岡寛治校長離任。
- 5. 1 定時制特別学級(県立松陽高校加古川分校)発足概要

- ①運営 通信教育部の教職員並びに松陽高校の教諭1名。
- ②生徒 本校通信生を対象として通学可能者
- ③授業(夜間授業)

(回)週3日制——月と火、水と木、金と土は同じ科目の授業で、生徒は両の中何れか1日を選んで登校できる。

④実施科目とコース(週)

- Aコース 国語 2時間 英語 5時間
保健 1時間 体育 2時間
物理 2時間
- Bコース 国語 2時間 英語 5時間
生物 3時間 体育 2時間

ほかに両コース共H R 2時間ずつ

⑤入学開講式

1、来賓県官

- イ、恩賀指導部長代理 吉岡指導係長
- ロ、人事課長 谷口義治先生
- ハ、学事課長 阿部道貫先生
- ニ、学年係長 金川春三先生
- ホ、学事主事 田中先生

2、特別来賓

- イ、県議会議員 中川寅治郎先生
- ロ、加印地方事務所長 出井先生
- ハ、豊岡高校長(前校長)亀岡寛治先生

3、本校並びに松陽高校 関係教職員

4、入学生徒

男32・女 9、計41名。

この日本一ささやかな入学開講式は当日午後5時、一普通教室を大国旗と万国旗で飾って行われたが、以上のように県官幹部5先生を

始め地元の県議、事務所長、遠くは豊岡高校長も参列され、40名の生徒にはほぼ同数の来賓及び職員一室に集まって行なわれた。各参列の先生方からそれぞれ懇切丁寧な激励を賜わり、実に感激的な挙式に終始したが、まことに特異な学校行事であった。

- 6. 1 専任教職員一体の孔版技術の研究講習
約1ヶ月にわたって、創版社の高岡氏を講師に、加古川通信独特のガリ版文化の樹立となった。
- 6. 7 兵庫県定通教育振興会の誕生
会長、細見県議会議長 副会長 文教委員長 沢田貞雄氏(本校1回卒)同、市長会長 浅見久夫氏(加古川市長)他に町村長会長、理事 全県から18名選出。
東播からは渡海県議
幹事 全県高校の校長・主事の中から14名が選出され、本校の通信教育部長もその1人に、幹事長には高校長会長の永松兵庫高校長がきまった。
- 6. 22 大検(大学入学資格検定<文部省令第13号>)が制定され、通信教育に又一つの目標が増えた。
- 7. 20 清流新聞(全日発行)に爾今通信教育部欄が設定された。
- 9. 15 通信教育生第2回卒業式挙行——5名
過去6期の入学生の統計によると、入学希望者は漸増の傾向にあるも、満1年経過する毎に5割の脱落者が出る——それ程通信教育の勉強には不断の努力がいるということで、この脱落の統計は百年の歴史を持つ米国でも同様であるという。——従って指導者としても一層の工夫と熱意を必要とする。

昭和27年

- 3. 15 第3回卒業式挙行——15名、平均年令29.3才
来賓 県教委・前川学校指導課長。
〃 松永秘書課長
地元側 浅見加古川市長
- 5. 1 現状のうち生徒数
男766名・女120名 計 886名
- 6. 1 高島安治庶務主任(当初から)転出さる。
- 8. 17 第1回 通教祭
参加生徒数 全県下61名。
展覧会・野球・庭球・バレー・囲碁・将棋・座談会等、名種目とも表彰。
- 9. 15 第4回卒業式——4名
- 10. 1 通信生の帽章、バッヂの制定配布。

(参考) 当時の定時制高校の本県の学校数

定時制 中心校 47 計 125校
分校 78

昭和28年

3. 15 第5回卒業式——7名
4. 1 通信教育の画期的拡充発展
- ①実施科目 9→12科目増、計21科目。
②認可単位50→56単位となる。
現実は目下1期生で通信だけでは
40単位内外が最高取得である。
7. 12 通信教育生座談会
参会者①生徒会役員全県指定19名。
②学校側 専任教職員全員
③来賓 大富一五郎加印地方事務所
長 加古川市内日刊新聞代
表 3氏
7. 17 通教振興法案衆院本会議で可決(教科書等)
8. 16 第2回通教祭(5周年記念)
- ①五周年記念式
②展覧会(書・画・手芸・文芸)
③体育会(野球・庭球・排球・卓球)
④囲碁・将棋・演劇・詩の朗読
⑤懇談会(終了後)

12. 5 「むつみ」誌35号、5周年記念号として発行。

昭和29年

3. 1 テープコーダー初購入(むつみ会)
3. 15 第6回卒業式——3名
4. 25 ①第12期生入学式及びむつみ会総会
②増加科目と単位
21教科目→31科目可能となり、単
位は106単位が実施可能で、内75単
位が卒業資格としての認可。
③待望の必修——体育の実施が認可された。
5. 16 第1回、特別講座の開設
- ①毎週第1日曜 社会・英語・数学・(一般
と幾何) 第3日曜 国語・解折(1)
②新入生座談会
8. 22 第3回 通教祭
11. 17 近畿定通教育研究協議会を兵庫県教育委員会
18 主催で開催。
第1会場 本校。
第2会場 津名郡岩屋 山本館。
①参加校
近畿6府県実施校、計12校約50名。
②特別参加 九州地区代表
福岡県立修猷館高校 水崎淳一主事
③来賓

兵庫県定通教育振興会副会長 浅見久夫先生
兵庫県幹事長代理県立湊川高校 佐々木主事
兵庫定通校長会代表県立松陽高校 市村校長
兵庫定通教育主事会長神崎工高校 針重校長
兵庫定通教育副会長県立小野工高校森下主事
兵庫定通教育副会長神戸鈴蘭台高校 林主事

- ④主催者
県教育委員会、指導課長以下5名。
- ⑤当番校
加古川・豊岡両校長両主事以下関係教職員
約20名。
- ⑥会議
各実施校持ち寄りの28項目の重要議題につ
いて研究協議したが、
この種の会合に。
イ、県教委自体で主催されたこと。
ロ、通信教育と定時制の幹部が混然一体とな
って議事の進行に当たったこと。
ハ、外郭団体の振興会が参列されたこと。
以上のように定通混然四者が勤労者教育の発
展のために研究を尽し得たことは全国にも稀
れなことで、これが全国的刺激として大いに
話題になったことはいうまでもない。

昭和30年

1. 10 「加古川通信」なる通信新聞を発行して、以
後、「むつみ」誌の姉妹編とする。
2. 26 第7回卒業式——7名
本日から「卒業式は全通合同で」挙行。
2時間半にわたって盛大、厳粛に挙行された
が特に異色ある通信生のための各来賓の祝辞
には心温まるものがあつた。殊に全国都道府
県友校20校からの心からなる祝電の披露には
一層感激を深めた。
4. 1 通信教育課程(通信制)認可さる。
(文、初中第162号文部省事務次官通達)前
述の通り28年4月実施科目が大巾に拡大さ
れ、卒業資格としての認可単位が28から一躍
56となり更に、29年4月から75に拡大された
が、今回発足満7年にして満単の85単位以上
が認可されたのである。
通信教育は爾今、通信制の名のもとに、全
日制・定時制と三者並列平等に高校教育の一
翼をにない、全く完成の域に達したのであ
る。思えば苦難の7年間であり、又その苦難
が、こんなにも早く報われるとは夢のよう
でもあつた。実施可能科目も物理・化学・工作
が追加されて計36科目、112~176単位が実施

可能となった。これで高校の全科目が殆んど出揃った。——今後は実施するに当たっての施設設備、職員定数、教育実施計画等に関する予算措置がその焦点になるのである。

7. 30 出張試験地区別年間実施計画樹立
8. 8 第3回宿泊スクーリング実施
8. 21 ①第4回通教祭
②NHK夜間高校講座利用方について奨励通知を全生徒に出す。
10. 9 本校面接指導を全日制体育祭と関係づけて実施し、特別教育活動とする。
11. 第1週、NHK近畿通教生向けローカル放送開始。

昭和31年

1. 8 第2回地区別出張考査開始
1. 10 兵庫県定通教育振興のための総合計画案（実施校を県中央部（神戸）に統合すること並びに通信教育独立高校、設置の件等を核心とした具体案）を県教委に提出陳情する。
3. 1 通信教育の困難点打解方策（特に協力校の設置と予算措置を中核とした具体案）について県教委に陳情する。
3. 18 春期宿泊スクーリング（3泊4日）実施。参加生徒男31名、女19名、計50名。
4. 1 川本猪三郎校長着任、清水敬治校長離任
3. 27 第8回卒業式——6名
4. 10 本校通信教育部発行の「学習必携」配布。
4. 15 ①31年度入学開講
男83名、女32名、計115名。
②むつみ会理事会開催。
4. 23 NHK高等学校講座開始
本講座は通信教育生の卒業資格の正式単位として認可された。
実施科目 英・国甲・数（代・幾）計4科目
5. 13 本校面接指導と生徒総会の実施。
6. 20 通信教育充実のための諸施策について、従前のものと関連して県教委に陳情する。
8. 18 夏期講習会並びに第5回通教祭実施。（3泊4日）
9. 1 実施可能科目の増加
農業一般・林業一般・被服・食物・保育家庭・家庭経営。
12. 18 高等学校通信教育規程の制定公布（文部省令第33号）

昭和32年

2. 13 通信教育実施校統合移転の正式通達くる。
「通信教育運営の合理化を図るため……4月

1日より……統合する。」

3. 1 第9回（本校最後）卒業式——6名
（全卒業生1回～9回 合計57名）
3. 10 県立長田高校へ移転完了
在籍生徒の学籍簿を始め学習関係全般並びに校具、教具一切を、トラック2台に満載して移転先の県立長田高校に搬入移転完了。
過去9年にわたる、職員生徒一体同心の新学制への生みの苦闘が、ようよう実って、輝くような成果を挙げたが、今日を最後に、さすがに勇名をはせた、わが親愛な通信教育部は、本教育の一層の発展を祈りつつ、しずかに、しずかに、淋しく、その日突然に消えて行った。（以上）

通信教育部の統廃合とその実状

元通信教育部長（主事）宮川 徳 一

50周年記念誌にその沿革を記載したが、これは本県は勿論全国にも関連する日本通信教育（高校認可）の歴史の一コマでもある。通信教育は昭和23年、日本に始めて設置せられた新学制で、勤労者を対象として、教育の社会教育化をめざして生まれたもので、定時制教育にさきがけること半年前である。全国都道府県毎に2校ずつが指定され、何れもその一校は県庁の所在地の有名校が選ばれたが、本県に限っては、神戸をよけて、加古川東高に置かれたのである。これには当時の学校長亀岡寛治先生並びに前校長で当時学校指導課の重要ポストにおられた青山勇先生、さらに当時県議会議員で文教委員長の本校第1回卒業生の沢田貞雄大先輩諸賢の陰の力によったことはいうまでもない。

第1回の生徒募集に当っては、全県下から620名の応募者があり、うち4名の血書の嘆願者さえあったことは当時の世相を反映して余りあった。

しかも3月27日に早くも入学開講式、独立室を整え着々と全国に率先して発足し、文部省からも福原課長始め、次々と係官が派遣され、全国実施校からは、文部省の推せんもあり、きびすを接して視察者を迎え、爾來全国に垂範して、リードしたことは自他共に認めるところであった。

さしもに栄えたわが通信教育の統合移転の當時を回想して、この沿革記載上の文責を果す意味も含めて、今ここに統合当時の実情を初めて公開し、当時の関係諸先生並びに在籍生徒諸君に心からおわび申し上げたい。

本校の通信教育部の統合は、あくまで発展的解消で

あり、むしろ私達学校当事者が本教育の発展と必然性に基いて全県下勤労学徒のためにと念願して、沿革記載の各項に見られるように、一貫した希望でもあり、この点何の悔もないが、かって日本一と全国にうたわれた、わが通信教育部の末路は、余りにも痛ましく、淋しいものであったことに言及したい。

即ち統合移転の計画は県教委内で前々から極秘裏に進められていたもので、私達も建言者として、うすうすは知ってはいたが、建言者の私達学校当事者には最後の最後まで何一つ相談もなく、どこまで進んでいるかも全くわからなかった。

統合移転の通知を受けたのは、沿革にあるように、4月も押し迫って、卒業式や新学期の生徒募集に大忙しの2月13日であり、全く晴天のへきれきであった。

この種の廃合の問題は各県でも地元や生徒の反対で血を見るような争いになるのが例であり、容易なことではない。恐らく全国的にも学校当事者が建言して円満に統合できたのは特異のケースである。これは真に勤労教育愛からできたものにほかならない。この建言を逆用した形でひそかに県教委が統合を一方向的に進めたことは、今となって見れば腑に落ちない点が多々あるが、当時は、このことについては学校内部で、ひたかくしにして職員相互に口外せぬことを誓約し、事後に生徒には諒解を得ることにしたのである。又一方、始め猛烈に反対であった豊岡高校の当事者を説き、又地元教育関係者や市会の有力者にも、それとなく事情を説明して、後で、とやかく無いよう万善の方途を講じたことはいうまでもない。2月21日の県の通達に添えて、学校長に口頭で、実施校の主事及び専任職員の身分は全員移転校に吸収するという約束もあったので、私を始め全職員安心し切って、これを真に受けていたことも事実である。

3月1日の卒業式(第9回)に当たっても、卒業生には無論、むつみ会の生徒役員にすら、ひとこと、半ことももらさなかったし、3月10日の移転の際にも、永年お世話になった、母校にすら鉛筆1本、白墨1本残さず、全部搬入したこともわかると思う。

処が3月20日になって県教委から「加古川、豊岡両校共、主事は受け入れられない」との知らせがあった。自分自身今になってまさかと思って啞然とし、今まで心血を注いで築き上げた本教育とも、これでお別れかと思えば、ただただ哀愁と落胆で涙のにじむ思いであった。それにも増して他の11人の専任の教職員の心情は、複雑微妙で、今までの明日への希望も団結心も一瞬に消え失せて、各自各様みな淋しい思いにうち沈んだことである。それからは話し合いにもすっぱり力が抜けて、全く暗い日々が続いた。

やがて、4月1日付で時の県教委の定通教育の元締であった、学校指導課長のM氏が移転校の長田高校長に、実業教育係長のI氏が淡路の高校長に、学校指導課の定通教育係のK氏が移転校の通信教育主事に発令されたのである。時にわれわれの多くの身分はまだそのままで決定せぬ者が多く、当時、教員組合の先生方が度々来校されて、このお手盛り人事をどう思うか、これで、あんた達はよいのかと詰問されたが、科達は極力平静をよそおい、何一つ不平不満など言わず、敢えて問題化しないよう、私達はこれでよいのだとは説明したものの、今にして思えば、当時の県教委当局者は現場のこんな気苦労や、ここまで努力した学校当事者の陰の力は何一つわからなかったようである。「弱き者よ汝こそ教育者なり。」の思いしきりである。こうして肝心な本家の三巨頭無きあと私達は一体どこに何を相談すればよいのか。

その後12人の専任教職員のうち、1教諭、2講師と1実習助手の名だけが長田高校へ移籍、他の8名はそれぞれ後に処を得たとはいえ、一様に愛着の通信教育を心ならずも離れて、散り散りばらばら、遂に生徒諸君との話し合いもないまま、又送別会や慰労会もなく、まことにあえない離別となったのである。

移籍後も、あれ程親交の深かった生徒諸君との交流も一切断たれ、長田高の通信教育の行事はおろか卒業式にすら、かって一度の案内もなく、又教育的な相談や、過去の関連など全くないままに、ついに今日に至ったのである。

最大の心残りは統廃合に当たって、私達教職員が、当時に在籍生徒や57名の卒業生諸兄に、ただ一言の予言はおろか、別れの挨拶さえも交わし得なかったこと、その後も長田高通信制の通信文の一隅にすら事情を述べる機会を得ず、ふとあの日、極めて突然に霧のように諸兄姉の前から消え去った私達の心情の一端でも語りたいたいという念願であった。

当時9年間を通じての諸兄姉(入学後の脱落者も含めて)との恩愛のきずなは断ち難く却って日と共につのる一方である。今般通信教育の沿革を想起するの機会を得て、統合17年余ヶ月を経て慕情さらにしきり、今ここに始めて統廃合の実情を公表して当時の通教関係諸兄姉に更めて、心からご挨拶申しあげる。当時の学校の実状と共に専任教職員の通信教育発展への熱意並びに統合時の苦衷を諒察願えれば幸甚である。

校訓・校歌・校旗制定のころ

校訓について

質実剛健 自治創造

創立当初に定められた校訓である。「質実剛健」とこれは、男子だけの中学校当時にはふさわしいことばで、あらゆる学校行事の精神がこれで貫かれていたと思われる。すなわち、服装においても——制服の下に着る肌着は、夏も冬も前開きの詰襟木綿のシャツ1枚で、メリヤスシャツの重ね着も許されなかったし——防寒具については軍手だけ、遠足、行軍の弁当は梅干入りの大きなにぎりめしをノリかトロコロブで巻いたもの2個と指定、等々。これらによって不抜の忍耐力を養おうという趣旨からであろう。「自治創造」加印地区にはじめて建設された中学校として、創意工夫をこらして校風を樹立してゆくという任務を背負ったものとして当然うなづける目標である。戦時中も一貫してこの精神が貫かれていったはずである。20有余年の間講堂正面の左右にこの額がかかげ続けられたのである。

自治創造 明朗親和

昭和23年学制の改革に伴う男女共学。こうなった昭和24年のある日、校務運営委員会で、校訓のことが話題となり、共学となった現在「自治創造」はよいとして、「質実剛健」の気風というのは女子にはどうもふさわしくない、改正の必要があるということになった。新しく民主主義が高唱されはじめた時であり、生徒の自治会設立はG・H・Qよりの指示要請事項でもありして、「自治創造」はそのままたりの綱領であるからよし。語呂（ごろ）の上からもう一つほしいがどうするかが問題となり、東西両校折半共学という事情から、仲よく手をつないでゆくことができるだろうか最も心配された関心事でもあったことから、「明朗親和」の案を出したところ即決、現在に至っている次第である。教室における生徒の坐席の配置といった形式面は勿論、精神面においてもその実を挙げ得たことは言を待たず、喜ばしいかぎりである。

校歌の制定

事実上における新学制実施の第1年すなわち昭和24年は、本校創立25周年にあたる年であった。新しく高校として発足しはじめたばかりであるが、前身の県立

中学校の歴史にここに終止符をうって、以後は全く空白として顧みないか。種々の見解もあり、感情の問題もありして即決はむずかしかったが、4月以来の議も熟して、5月も半ばごろには25周年記念式典並びに事業を行なうことになり、時期も秋にということに決定した。そして協議を重ねるうち、校訓、校旗、校歌を新しく制定しようということになったのである。校歌の制定について一応議のまとまったのが1学期も終わりだった。作詞は神戸新聞社囑託をしていられた富田碎花先生に依頼することに決定。夏休みの炎熱の一日、先生宅を訪問、事情を説明作詩のお願いを申し上げた——当時先生は県立芦屋高校のすぐ東北、十字路を隔てた対角線のところにある破屋の離れの土蔵部屋（ここは谷崎潤一郎氏が現代語訳源氏物語を執筆されていた家であるとか）に住居しておられた。二つ返事の快諾は得たのであるが、まず、職員生徒一同から作品を募集してほしい、その上で……ということであった。9月新学期のはじまりを待って募集はしてみたが、生徒の作品に目ぼしいものはなかったが、それでも10数篇を選び、それに、高橋きさの先生のと小生のとを加えて9月28日持参。10月5日早速に出来たからとの連絡があって参上する。生徒のものを何とか生かそうと思ったが、取り上げるものはなかった。高橋先生の作品に「光は常に東より」の一行だけを付け加えることにした。高橋きさの先生の作詞としてもらって結構だからということであった。

次に作曲であるが、富田先生の内意を伺ってみたところその場で須藤五郎先生を推せんして下さったので、明10月6日、大阪府豊中市蛍ヶ池の先生のお宅を訪問、お願い申し上げたところ、いいですね、すばらしい曲ができそうです、出来上がりを楽しみにはりきって作曲してみましょう、と快く承諾して下さいって胸の重荷を下ろしたわけでした。10月15日作曲完了の報を受け、10月17日作曲受領に行く。すばらしいピアノを置いた応接室に通され、いい曲ができましたよ、ひとつ聞いて下さい、と言って、早速鍵盤の上に指を弾まされた。全くの音痴の小生、ただ黙しているだけ、全く冷汗の思いであった。記念式当日は是非お伺いして、私が指揮して生徒の皆さんと一緒に歌ってみたいと、満面に笑みを湛えておっしゃった。10月29日式典当日ご来校になりタクトをとられたことはいうまでもない。こうして現在の校歌が制定されたわけである。

(高松一禧)

校旗を語る

思い出しても、昏冥そのものの年であった。昭和22年3月「学校教育法」が公布され、新制高等学校は1年間の準備期間を経て23年度から発足することになった。日本占領軍総司令部からは、学区制・男女共学制・総合制、の三つの原則が強く主張された。

しかし、23年2月の「新学校制度実施準備の案内」では必ずしも男女共学でなくてもよい、地方の実情、なかんずく地域の教育的意見を尊重して決定すべきである、とされた。その後の動きについては我々においては知るよしもないが、当時の兵庫県においては軍政官の意見が強く影響したのであろう、23年4月に発足した高等学校は、その7月加古川中学校と加古川女学校との職員生徒の折半交流が決定したのである。

当時としてはこの敷かれた路線を走るよりなかったのである。入学時には思いもよらなかった男女交流により、中学校に残る者・女学校に行く者に分れ、生木を裂かれる思いのうちに、互いに泣しながら別れたのであった。

さて、生徒職員は一応ととのったけれど、その他については、教科内容は勿論の事、校名さえもきまっていなかった。何回かの会合の結果、校名は加古川東高等学校・加古川西高等学校に決定したのであった。

私はここに両校の校章について話さねばならない。昭和23年4月、新制高等学校発足の時に、中学校全生徒から校章を公募し、堀田昌男君の作品二種が選ばれたのである。（彼はその後、交流により加古川西高校に行った。そうして彼の作品が現在の加古川東高等学校の校章となり、一方は加古川西高等学校の校章となったのである。）彼は加古川東高等学校の校章について、「これは、久遠の過去から我が郷土をはぐくみ永遠の未来までつづく加古川の清き流れの上に立つ我が母校と、その母校の永遠の発展を希い、そこを巣立つ若人がわが故郷をこよなく愛し、そのもつ力をふるさとにそそぐ事を希う私の祈りです」と語った。

さて校章が出来、次は校旗であった。幾度かの選定委員会が開かれ、協議が重ねられた。

しかし一向に名案がうかばない。だいいち日本全土が焦土と化した当時、校旗を作る所があることさえわからない。途方に暮れている時に、朝鮮から郷里の加古川に帰って運動具店をはじめようとされていた、鈴木幸次氏（現鈴木運動具店）に偶然話しかけて見ると、「あります、京都にあります、しかし今材料がありますでしょうか」の言葉に、京都をよく知っているというだけで、私が全権を委任されて京都に行く事になった。「あなたも行って下さい」の私の言

葉に鈴木氏は「大切な校旗の事ですから私ごとき者が」と辞退されるのを、たつと頼み同道していただいた。京都迄の切符を入手するのも困難な時代であった。たずね歩いて、ようやく下京区四条通西洞院東入の平岡旗店（現平岡旗製造株式会社）をみつけた。ホッとした思いで店内に入り、持参した中学校の真紅の地に中央を金糸で校章を刺繍し、周囲の房も金糸で地を連ねたズッシリとした重みのある校旗を手渡してこれと同じものを作ってほしい。新しい校章はこれである」と堀田君の作の校章を示して話しかけた。私より二つ三つ年長と思われる店主の平岡新一郎氏は中学校の校旗を手にして、こまかに観察してだまって私に返し、「これと同じ物と言われても、今ではこのような立派なものはありません。だいいちこの布がありませんし、金は純金です。

これは今手に入りません。まことに残念ですがおひき受けする事は出来ません」と言った。私は困惑して、だまって平岡氏の顔を見ていると「この校旗を使わせて頂いてなら出来ます。生地は素晴らしいし、金も充分に使ってあるし、色ぬきをして紫紺に染めあげれば立派なものになります。」とつけたした。私はしばらく考えさせてほしいと校旗をあずけたままで四条通りを東に八坂神社へと歩いた。道々「中学校が高等学校に移行するのだ。校旗もそのままに移行してもいいではないか、もしそれに対して異議があれば私がその責を負えばいいではないか」と意を決してとって返して、平岡氏にお願いしたのであった。それは注文したのではなかった。私は平岡氏に精魂こめてほしいとのお願いだ。平岡氏も「作らせて頂きます」と言ってくれた。私の独断で、旧制の卒業生が仰いだあの真紅の校旗を失ってしまった。それは今にして思えば慚愧に堪えないことである。しかし幾十年の歴史を秘めた旧加古川中学校の校旗が、その生地、その金糸をそのままに新しく県立加古川東高等学校を象徴する校旗として、再び紫紺の色鮮やかに母校にかかげられた時の感激は忘れられない。私は、私の教員生活の大半を過ごした母校を去った今も、この思い出の校旗を紐帯として、一万数千の同窓が深く強く永遠にむすばれるものと確信している。

（追記）私はこれを書きとどめるために京都に平岡新一郎氏を訪れた。そうして二人で当時をふりかえって感慨新たなものがあった。二人とも、唯校旗を作るといふ事にだけ自分を打込んでいたのか、その当時の事が昨日の事のように想い出されるのであるが、さてその値はいくらであったか二人ともどうしても思い出す事は出来なかった。支払ったのか支払わなかったのかそれさえも思い出すことが出来なかった。（龍見議）

校地・校舎の変遷

重松景正

1. 運動場の拡張について

大正13年創立当時の学校の規模は1学年3学級150人で、昭和3年になり、5学年15学級で生徒定員も750名となった。しかし定人員は700名を割っていたと思われる。

運動場の面積が大体4,000坪で校舎敷地が約3,000坪合計7,000坪であった。運動場の広さは、生徒一人当たり約6坪(20㎡)で、現在の高校生の国の基準面積の30㎡の約3/4であった。しかし、戦後生徒数もふえ、1,500名を越えるときもあって、生徒一人当たりわずか8㎡となり国の基準の約1/2しかなく、狭くて困っていた。昭和37年度からの生徒の急増をひかえ、昭和35年に、同窓会・育友会等学校関係者相寄り相談した結果運動場の拡張にふみ切った。もとの運動場の南側に約2,400坪を拡張することになった。当時地元栗津町内会の加古潔氏の絶大なるお骨折により、僅か数カ月で地元土地所有者の了解を得て買入して県に寄付した。運動場の拡張整地工事は県教委で実施された。

校地の台帳面積は次頁表Ⅰのとおりである。

2. 校舎の改築について

校舎の改築も生徒急増時の昭和37年度から別表のように進化した。

すなわち、元の運動場に第1期工事(普通教室)がはじまり、2年おいて第2期工事が、つづいて第3期工事が施行された。旧校舎は昭和41年度に一部が用途廃止され、42年度に少し用途廃止され、43年度に大部分が用途廃止された。丁度その時、旧運動場の中央に本館の改築がはじまり、運動場がなくなり、この年生徒待望の秋の運動会が実施されなかった。生徒も残念であったことであろう。その年の年度末に、一谷県教育長が単身来校視察されたので、実情を具申した。その後旧校舎もおいおい用途廃止され、あと地も整地され立派な運動場となった。

旧校舎と改築の状況次頁表Ⅱのとおり。

3. 東側の校地拡張について

改築が進められ、旧校舎が用途廃止され、運動場もおいおい整地されつゝあるとき、校地が国の基準の37%しかなく狭いので、何とか拡張したいとはかり、昭和42年秋より本格的に拡張に取り組んだ。すなわち、校地の東側で栗津へ行く市道までの約700坪(2,300㎡)である。民家が2戸あり、また土地所有者の事情もあって交渉が難行した。しかし、当時育友会会計の高橋一郎氏、歴代4人の育友会長、また前回運動場拡張の

ときお骨折下さった栗津の加古潔氏(当時農協参事)のご協力により約4年を要し拡張がみのった。この土地は県の開発会社により昭和46年7月28日買上げられた。しかし県教委を通じて学校に引継がれるのは昭和50年度になる予定である。

4. 最後の校舎建築について

別表の改築実施表にない、生徒集会所(給食室)、格技場(柔剣道場)が漸く本昭和48年度の当初予算でみとめられた。丁度、昭和49年は本校創立50周年にあたるので、同窓会では記念会館の建設を計画していて数次にわたり県教委と交渉を重ねた結果土地使用の許可を得て、上記県の建物の第3階に別図のように、県の建物と同時施行することになった。昭和48年11月1日に着工し、昭和49年5月29日に完工の予定である。

会館用地について

高橋一郎(中13回)

4年程前の或る会合の席で前山本校長先生から「本日の議題の一つである『同窓会館の用地取得について』諸般の情勢から判断して会館用地の取得を見送りたいと思うので、この件討議するよう」とのお話があり、会議の空気は、校長先生の御発言通り九分九厘「取得見送り」ということに決まりそうであった。その時、何のハズミか知らないが、校長先生の上手な話術にひっかかってしまったのだろう。私の口から無意識に「東高百年の大計の為にもう一度取得の方向に向けて努力してはいかがですか」とカッコのよい言葉がとび出してしまった。

サア大変、お鉢が私の所へ廻って来たのは勿論。「ヒトコト多かった」があとの祭り。

校長先生、重松事務長を初め、同窓会・育友会の方々のご指導お力添えと、特に地主各位の充分なご理解と絶大なるご協力を得て完成した、かくも立派な会館を眼の前にして感慨無量なものがある。

ご協力願った地主各位のお顔が次から次へと……山本前校長のお顔一杯あふれるばかりの笑顔……全く夢のようである。

地主各位のご期待ご協力でさうべく末永く立派な運営をされるようお祈りしている次第であります。

時 期	摘 要	字	筆 数	面 積	平方米に換算
大正13年	寄 付	北浦ほか三字	4 1 筆	7,346坪	およそ (24,280m ²)
昭和35年	寄 付	落合、大向	3 6 筆	2,380坪	およそ (7,867m ²)
昭和46. 8. 21	寄 付 (水路)	2 字	5 筆	—	101.43m ²
昭和47. 3. 13	購入一国有地の水路・県道	4 字	6 筆	—	442.97m ²
昭和47. 5. 6	表示登記による減	—	—	—	△ 2.97m ²
昭和47.10.24	合筆登記による減	—	—	—	△ 1.45m ²
昭和49. 3. 1 現在	合 計	5 字	9 筆	—	32,686.91m ²

表 I

参考までに生徒1人当りの面積は24m²で国の基準70.0m²の33%である。

旧 校 舎

期 別	棟 数	建 坪	延 坪
大13年～ 昭12年	36 棟	1,502 坪	1,960 坪
昭26年～ 昭28年	5	104	104
計	41	1,606	2,064

表 II

表 III

改築の状況 (新校舎)

期 別	年 度	場 所	室 名	建面積	延面積	施 工 者
第 1 期	昭37	南校舎、西端	普通教室	225	900 m ²	建築工事 前川建設(株)
第 2 期	昭40	〃 中央	普通教室	405	1,620	建築工事(株)進藤組 電気工事(株)明和工務店 衛生設備工事 三神工業(株)
第 3 期	昭41	〃 東端	普通教室 特別教室	360	1,545	建築工事 前川建設(株) 電気工事 (株)協和電気商会 衛生設備工事 三神工業(株) ガス設備工事 大阪瓦斯(株)高砂営業所
—	昭41～ 昭42	—	体育館兼講堂	1,305	1,560	建築工事 前川建設(株) 電気工事 (株)協和電気商会
第 4 期	昭43	本館西半分	管理室、 特別教室	940	2,755	建築工事 前川建設(株) 電気工事 (株)北村電気工業所 衛生設備工事 山陽設備(株) ガス設備工事 大阪瓦斯(株)高砂営業所
第 5 期	昭46	本館東半分	管 理 室 特別教室 (正門)	589	2,081	建築工事 前川建設(株) 電気工社 (株)北村電気工業所 衛生設備工事 藤田水設株式会川 ガス設備工事 大阪瓦斯(株)高砂営業所
—	昭44～ 昭45	—	生徒部室	99	198	建築工事 前川建設(株)

ほかに自転車置場6棟・プール(昭和45年度)あり

校 則 の 変 遷

生徒心得(抄)

—戦前—

(一) 一般心得

1. 校ノ内外ヲ論ゼス本校ノ体面ヲ汚シ生徒タルノ本分ニ背クガ如キ挙動アルベカラズ
1. 登校ノ際ハ勿論外出スルトキハ必ず制服制帽又ハ制帽ニ袴ヲ着用スベシ
1. 演劇場、寄席、飲食店其ノ他風紀ヲ害スル恐アル場所ニハ一切立入ルベカラズ
1. 止ムヲ得ザル用事アルトキノ外ハ夜間外出ヲナスベカラズ
1. 如何ナル場合ト雖モ飲酒喫煙ヲナスベカラズ
1. 猥リニ稗史小説ヲ読ムベカラズ
1. 生徒ノ集合ヲナサントスルトキハ其ノ目的、日時場所、経費等ヲ定メ少クトモ三日以前ニ学年主任ニ願ヒ出デ其ノ承認ヲ受クルヲ要ス
1. 新ニ宿所ヲ定メ又ハ変更セントスルトキハソノ以前ニ保証人連署ヲ以テ学年主任ニ届出ヅベシ但シ学年主任ニ於テ不適当ト認ムルトキハ許可セザルコトアルベシ
1. 保証人ノ変更又ハ其ノ住所ノ異動アリタルトキハ速ニ学年主任ニ届出ズベシ
1. 本校若クハ其ノ附近ニ火災其ノ他ノ事變アルトキハ速ニ登校シテ職員ノ指揮ヲ受クベシ
1. 自己ノ住所又ハ其ノ附近ニ伝染病患者ヲ生ゼシトキハ速ニ学年主任ニ届出ヅベシ
1. 授業料及報国団並ニ同窓会々費納入ノ期日ヲ厳守スベシ 授業料滞納者ニ対シテハ停学又ハ退学ヲ命ズルコトアルベシ
1. 校ノ内外ヲ問ハズ師長又ハ学友ニ出会ヒタルトキハ敬礼ヲ行フベシ 但シ校内ニ於テハ朝ノ予鈴マデハ敬礼ヲ行ヒ本鈴後ハ出会ノ都度一々之ヲ行フニ及バズ
1. 師長ニ対シテハ先ヅ受礼者ノ前方ニ停立シ敬礼ヲ行フベシ 学友ニ対シテ敬礼ヲ行フトキハ特ニ停立スルヲ要セズ 学友ヨリ敬礼ヲ受ケタル場合ハ必ず答礼スベシ

(二) 校内心得

1. 登校シタルトキハ一切ノ携帶品ヲ指定ノ場所ニ整頓シ置クベシ 特ニ自転車ハ指定以外ノ場所ニ放置スベカラズ
1. 休憩時間中ハ決シテ教室ニ残留スベカラズ

(三) 週番生徒心得

1. 始業約三十分前ニ登校シ週番任務遺憾ナキヲ期スベシ
1. 休憩時間中舎内ヲ巡視シ一般生徒ノ状況ニ注意スベシ
1. 毎日掃除後各教室ヲ巡視シ当日ノ掃除ノ状況並ニ備品ノ整頓等ヲ調査スベシ

(四) 其ノ他

1. 各組ニ組長及副組長各一名ヲ置ク
1. 登校ノ際止ムヲ得ズシテ和服其ノ他略装ヲ為サントスルトキハ組主任又ハ監督係ニ申出デ其ノ許可ヲ受クルコト

生徒服装規程(抄) —昭和16年—

(1) 上 衣

1. 色相 茶褐色(国防色)
1. 生地 更生糸織物小倉織ノ類
1. 製式 国民服乙号ニ準ジ且左ノ通りトス
イ. 襟ハ低襟トシ且内側ニ附襟ヲ附ス
ロ. 胸部物入ハ左右各内式一箇トシ蓋及釦ヲ附ス
腰部物入ハ蓋ニ釦ヲ附セザルノ外右ニ同ジ
ハ. 腋下ニ腋開ヲ設ク
ニ. 釦吊ヲ附ス
ホ. 裾割ハ附セズ
ヘ. 袖ノ外側裏ヨリ共布地ヲ以テ肱当ヲ附ス

(2) 袴

1. 色相 上衣ニ同ジ
1. 生地 上衣ニ同ジ
1. 製式
イ. 物入レハ後部左右ニ各外式襷附一箇トシ蓋及釦ヲ附ス 両側物入ハ附セズ
ロ. 共布地ノ腰紐ヲ附ス 但シ帶ヲ用フル事ヲ得
ハ. 前面膝部裏ヨリ共布地ヲ以テ膝当ヲ附ス

(3) 帽

1. 色相 上衣ニ同ジ
1. 生地 絨又ハ布
1. 製式
イ. 陸軍略帽ニ準ジ幅三糎ノ鉢巻ヲ附ス
ロ. 顎紐ハ布地ノモノヲ附ス
ハ. 両側ニ通気孔各二箇ヲ附ス
ニ. 輪皮ハ擬帶ノ類ヲ以テ附ス
ホ. 帽章、金色真鍮中ノ字ノ中央「加古」ノ二字

縦三、六極強（一寸二分）横四、六極強（一寸四分）

(4) 靴

1. 通学用
茶褐色革製（牛、豚、鯨）編上ゲニシテ飾ナキモノトス
2. 運動用（上靴）
革又ハ布、黒短靴ニシテ裏底ニ金ナキモノ

(5) 鞆

1. 色相 茶褐色
1. 生地 布（商工省ノ規格品トス）
3. 製式 肩掛式トス

生徒心得 一昭和25年一

1. 吾らは常に自覚を以て自発的、積極的、研究的態度を身につけ正しい理解と識見を養うように努力する。
2. 吾らは礼儀を重んじ言語態度を厳正明確にし師長を尊び、年少者をいたわり謙讓と奉仕の精神を以て行動する。
3. 吾らは質素清潔をむねとし高校生たるの良識を失することなきよう常に心掛ける。

第一 校内生活

4. 教室内外の整理整頓を励行しみだりに紙くずを捨て、たん、つばを吐く等の乱雑不衛生なことをしない。
5. 集合は迅速に行い静粛にする。
6. 考査の際は堂々と実力を発揮し不正行為など、不真面目なことは決してしない。
7. 欠席、欠課は保護者よりその理由を明かにしてホームルーム主任に届け出る。
8. 掃除は通常毎日行い一週一回は大掃除を行う。

第二 校外生活

9. 校外においても常に本校生たるの責任と名誉を自覚し秩序を尊び公德心の昂揚に協力する。

第三 一般

10. 服装は常に生徒としての品位を保持する。但し服装に関する規定は別に定める。
11. 常に生徒会発行の生徒手帳を所持し必要あれば提示する。
12. 生徒会の許可なくして生徒会の名前で集合、出版・投書・広告・公共物使用等団体行動をしない。
13. 国家が法を以て未成年者の飲酒喫煙を禁じた意義をよく理解し、吾らは高校生として衆に先んじて遵法の精神を奮い起し、禁酒、禁煙を実行する。
14. 男女の交際は生徒としての面目に背かぬたしなみ

を以て行う。

15. 生徒としての本分を全うするため青年団には原則として加入しない。
16. 生徒は互に敬愛の精神をもちお互の人格を尊重し良き校風の樹立発揚に努める。

服装規定

一 一般

1. 登校、下校の際は必ず制服、制帽を着用のこと。
2. 服装頭髪は総て整美、清潔を旨とし他人に不愉快の感を与えぬこと。
3. 夏服の期間は6月1日より9月末までとする。
4. 下駄ばきにて校舎内に上ることを禁ずる。

男 子

1. 授業中防寒具は一切使用しない。
2. 夏服はオープンシャツ、カッターシャツ及び白ずぼんを着用しても可。

女 子

1. 常にポケットの上に校章を付けておくこと。
2. 女子の制服

上 衣 夏は白のポプリン地にてセーラー型、そ

では半そでにしてえりには白テープを3本、直角につけること。

冬は紺サージ地にてセーラー型、そでは長そでにてカフスを付けること。

スカート 紺サージにてひだの数は20~24、後中央

を突合せひだにすること。

ウエスト 夏は白、冬は黒にすること。

ネクタイ 色はネービーブルーで地質はクレープデ

シン、形は大巾三角巾のこと。

生徒申し合せ事項(抄)

一昭和30年代一

われらは加古川東高校生として校内外を問わずこの申し合わせ事項を尊重して行動する。

1. 通 学

1. 朝は原則として始業5分前に登校し、下校時後には許可なくして学校に滞らない。
2. 欠席、欠課は保護者よりその理由を生徒手帳に明記し、ホームルーム主任に届出る。又欠席1週間以上続く場合は医師の診断書を添えて届出る。
3. 通学に際しては交通道德をよく守り汽車又はバス、通学者は同乗者に迷惑をかけない。

2. 服 装

2. 服装は質素を旨とし華美に流れ、あるいは反対に蛮風を誇示することのないように留意する。

3. 常に高校生徒としての品位を保ち、清潔に心がけ異様な風は避ける。
3. 男女交際
 1. 特定の個人に偏することなく、男女の特質を理解する交際であること。
 2. 交際は常に開放的であり相互の家人の了解をうけること、交際に秘密を守らねばならない様なことが起るのは健全な交際でない。
3. 互いに礼儀を失わぬよう、又交際を強要してはならない。
4. 態度
 1. 長上に対しては常に敬意を失わない態度をとること。
 4. 廊下の歩行は静かにし、集合は敏速且静粛であること。
6. 集会掲示
 1. 集会掲示、出版、広告、公共物使用等はすべて学校の許可を受けること。
 2. 校具、公共物を使用するときは許可を受け破損汚損しないこと、紛失破損の場合は弁償する。
8. 飲食
 1. 喫煙、飲酒は絶対にしないこと。
 2. 飲食のための過大な金銭は消費しない。飲食店は原則として立寄ってはならない。

服装規定 一昭和30年一

本校生徒の服装は上品で簡素である事を旨として下記のように定める。

A 男子

1. 制帽 品質(ラジャ)制式(丸形、アゴ紐無し)色(黒)緑(中型…扁平形でないもの)前章(校章)耳ボタン(丸形で小型校章)(白線二本)
2. 上衣 制式(詰襟立カラー)地質(サージを原則とする)色(黒又は紺)襟章(向って右に「東」左に学年章…ローマ数字)ボタン(胸及び袖…真鍮製小型校章入り)但し、夏期は(オープンシャツ・カッターシャツ)(白無地)を着用してもよい。なおこの場合、襟章は帽子の両横につける
3. スボン…上衣に準ずる
4. 靴…白ズック製
5. 頭髪…丸刈り

B 女子

1. 上衣(校章及胸章はポケットの上、学年章はネクタイの中央につける。

夏 { 形 (半袖セーラー…衿に白線三本を直角につける)

色 { 色 (白)地質(木綿又は化繊)

冬 { 形 (長袖セーラー…衿、袖口に夏服同様白線三本を直角に付ける)

色 { 色 (紺)地質(サージ、日毛400番)

2. ネクタイ…形(三角形)色(ブルー)
3. スカート…形(ヒダ数は24から28までのヒダスカート)色(紺)地質(サージを原則とする)スラックスを着用してもよい。
10. 頭髪…学生らしく清潔であること。パーマ等はしない。

(附記)

1. マフラーは使用しない。
4. 登校・下校の際は必ず制服制帽着用のこと。
7. 女子上衣の胸明寸法は5~7cmとする。

生徒申し合わせ事項(抄)

一昭和48年代一

私たち加古川東高校生は、各人の良識ある判断にもとづいて行動するものであるが、高校生活をおくるにあたって、みんなで最低守らなければならないと思われることがらを次のとおり申し合わせるものである。

1. 通学

1. 登校・下校に際しては学校で決められた時刻を厳守しよう。
2. やむを得ず下校時刻が過ぎても残らなければならないときは先生に許可を受けよう。

2. 交通安全

1. 交通法規をよく理解して守ろう。

3. 服装

1. 外出時の服装は高校生としての品位を保ち、異様な風を避けよう。

3. 服装

1. 外出時の服装は高校生としての品位を保ち、異様な風を避けよう。

5. 生活態度

1. 明るく創造的な雰囲気に満ちた校風をめざそう
3. 目上の人に対しては常に敬意を失わない態度をとろう。
4. 男女交際は高校生らしく開放的に行なおう。

6. 飲食

1. 喫煙、飲食は絶対にしないようにしよう。
2. 飲食店にはなるべく立ち寄らないようにしよう

9. 生徒会

1. 創造性豊かな自治活動に努め、よりよい加古川

東高の校風を作り上げよう。

10. H・R活動

1. H・R活動は、自主的、創造的行動を促進する場であることを確認しよう。

11. クラブ

1. クラブ活動を通じて、幅広い学校生活を送ろう。

12. 集 会

1. 委員会、議会、その他諸会合は開始時刻及び閉会時刻を厳守しよう。
2. 集会の際には、いたづらに私語することを避け進行をさまたげないようにしよう。

13. 届 け 出

1. 欠席、欠課は定めに従って保護者により、その理由を生徒手帳に明記、ホームルーム主任に届け出よう。

3. 集会、掲示、出版、広告は監察委員会内の情報管理委員会に申し出る。

服装規定(抄) 一昭和48年一

本校生徒の服装は上品で簡素である事を旨として下記のように定める。

男女子とも前記(昭和30年代)とほとんど変わらないため、変更のある所のみ記す。(編者)

A 男 子

9. 頭髪…学生らしく清潔であること。
(付記)
2. 自転車通学およびこれに準ずる遠隔地から通学する女子に限り、マフラーの着用を認める。
3. 登校・下校の際には必ず制服を着用の事。
6. 校舎内では上履きを使用する。

歴代生徒会役員一覽

第1回 (昭和23年)	永井万介 高田千春 佐藤由紀子	第15回 (昭和36年)	河井隆博 三浦武 中作文子
第2回 (昭和24年)	荻野直義 橋本 淳 前田達子	第16回 (昭和37年)	沢田猛 橋新子 木村(遠藤)順子
第3回 (昭和24年)	橋本 淳 小野(岩井)一枝	第17回 (昭和38年)	五十嵐裕治 三宅英璋 佃隆子
第4回 (昭和25年)	高久広雄 木多(三浦)利子	第18回 (昭和49年)	坂田月代 入江隆彦 神吉和子
第5回 (昭和26年)	竹内正俊 小橋(中村)洋美	第19回 (昭和40年)	糟谷豊 宮永光一 上月昭信
第6回 (昭和27年)	細川(山室)幸子 田中信明 坂田雅文 池野(小柴)文子	第20回 (昭和41年)	曾根善子 前川信博 足立光平
第7回 (昭和28年)	中川 潔 橋本喜久男 竜田(高久)文子	第21回 (昭和42年)	志野木武夫 吉政孝明 藤本和平
第8回 (昭和29年)	前田正 坂口功 逸見(西島)三恵	第22回 (昭和43年)	樽井由紀夫 木沢誠名 東村泰美
第9回 (昭和30年)	田中敏夫 三木寿生 山田(喜多)一美	第23回 (昭和44年)	畑稚成 中田哲也 山本峰久 荒井恵
第10回 (昭和31年)	高久重剛 山本皓二 小山(井沢)艶子	第24回 (昭和45年)	矢野宗司 田城一也 浜野守雄
第11回 (昭和32年)	大杉光謹 糟谷正彦 稲田(山本)純子	第25回 (昭和46年)	福田薫 田頭秀雄 井口佳夫
第12回 (昭和33年)	平郡寧洋 山本(宮田)美津子 松本(福原)暁子	第26回 (昭和47年)	崎村真 滝川裕 福田一夫
第13回 (昭和34年)	北浦孝雄 曾爾瀧 堀井(喜多)扶佐子	第27回 (昭和48年)	山本行秀 中島克紀 前田ふさゑ
第14回 (昭和35年)	小原武 平本勝章 井上貴子		

(注) 年度は任命された時のもの。

育友会略史

昭和22年4月 父母と先生の会結成。主として旅費補助を行った。当時の記録によると、谷沢教諭明石出張旅費43円、会員香料50円等がある。

昭和23年7月19日 東西両高校への交流再編成のため父母の会は解消。加古川東高校育友会編成、総会を開き、会則決定、役員選出。

会長中川寅次郎、会費月額 150円。

昭和24年5月11日 会長中川寅次郎

藤原留治教諭の尽力により、昭和24年～33年の10年間、東高名物となった大阪文楽座をまねいた。桐竹紋十郎、豊竹若太夫、野沢喜右衛門等、人間国宝となり、いずれも亡くなられた方々が来演、空前の盛況であった。収益は各科、特に家庭科の備品の充実にあてた。

昭和24年10月28日 開校25周年記念祝典を行った。総費用196,258円。記念音楽会に笹田和子（ソプラノ）、伊達三郎（チェロ）、神沢哲郎（ピアノ）来演。スクールくじ、50万円、本校に割当て依頼あり、完全に消化した。

昭和25年5月 会長 平郡清

昭和26年5月 会長 平郡清

昭和27年5月 会長 竹中光治

育友会費 150円、生徒会費 80円、図書費35円、体保費10円、学習費25円、新聞費10円、同窓会費20円、計 330円。

昭和28年5月 会長 竹中光治

昭和29年5月 会長 竹中光治

11月 体育後援会発足、会費月額30円。

昭和30年5月 会長 竹中光治

昭和31年5月 会長 大西為助

現在の球技場にあたる部分の校地拡張のため、新入会員より施設充実費 1,500円徴収。

昭和32年5月 会長 大西為助

昭和33年5月 会長 大西為助

施設充実費新入会員より 2,500円、育友会費月額200円。

昭和34年5月 会長 大西為助

運動場拡張決定 校地 3,000坪。

昭和35年5月 会長 大西為助

昭和36年5月 会長 木村 泰

会費200円、学習費40円、図書費50円 体保費10円、体育後援会費30円、施設充実費、新入会員よ

り1,500円、校舎改善費新入会員より1,000円

昭和37年5月 会長 木村 泰

昭和38年5月 会長 中崎邦夫

昭和39年5月 会長 中崎邦夫

開校40周年記念式典、記念誌発行等、総費用637,625円

昭和40年5月 会長 中崎邦夫

昭和41年5月 会長 中崎邦夫

昭和42年5月 会長 酒見真暁

校地東側の土地買収を進める事に決定。

昭和43年5月 会長 酒見真暁

学校設備充実資金徴収を廃止する。

昭和44年5月 会長 丸山重夫

会費 月額300円、生徒会費150円、野外活動費50円、育友会入会費 2,000円、クラブ活動費30円。

昭和45年3月 父兄負担の軽減について全県的な運動が起り、同時に大学紛争が高校にも広がる様相をみせてきた。

昭和45年5月 会長 松野雄次

昭和46年4月 会長 稲田 勇

公費負担に当たる分を切捨てる事により、会費月額 100円とし、図書費・学習費・クラブ活動費・入会金・設備充実費・野外活動費等一切廃止した46年度事業として、会員名簿、進路の手引の発行を育友会に移管、地区懇談会・芸術鑑賞会を行った。地区懇談会は、開催地19地区、出席者は全会員の80%に達した。

東側の校地買収が4年がかりで終る。

昭和47年4月 会長 田中繁雄

同窓会館建設にあたり、清流会と共に活動した。

昭和48年4月 会長 大村武雄

会費 月額 150円に値上げ。

（育友会校内幹事 坂田重夫）

大学入試合格者数（浪人を含む）推移一覧表

年 度	国立一期	国立二期	公 立 準 大 学	私 立	国 公 立 短 大	私立短大	計
2 9 年	27	4	13	32	22	11	109
3 0 年	22	7	24	42	17	7	119
3 1 年	33	10	22	62	18	12	157
3 2 年	34	7	21	87	13	7	169
3 3 年	45	13	33	117	10	6	224
3 4 年	43	8	46	141	16	11	265
3 5 年	58	4	39	111	13	12	237
3 6 年	56	9	42	114	14	13	248
3 7 年	68	28	51	169	10	14	340
3 8 年	76	26	57	201	11	15	386
3 9 年	67	26	46	200	13	19	371
4 0 年	77	29	73	338	26	18	561
4 1 年	97	37	73	433	29	38	707
4 2 年	87	39	71	319	18	25	559
4 3 年	107	34	78	474	20	32	745
4 4 年	86	29	63	461	19	29	687
4 5 年	114	37	50	512	7	19	739
4 6 年	123	29	35	516	17	30	750
4 7 年	104	40	52	455	25	27	703
4 8 年	134	37	48	480	24	34	757

身体状況推移一覧表

学 年	生徒数	身 長	体 重	胸 囲	備 考
中学1回 (昭4卒)	109	159.55	50.645	72.703	5年生のときのもの
中学5回 (昭8卒)	117	162.258	53.590	80.358	〃
中学10回 (昭13卒)	101	162.118	53.042	80.848	〃
中学14回 (昭17卒)	126	163.169	52.243	82.706	〃
中学18回 (昭20卒)	185	163.398	52.518	81.540	4年生のときのもの
中学20回 (昭22卒)	139	160.973	51.262	81.197	5年生のときのもの
高校17回 (昭40卒)	男 253	男 165.686	男 54.593	男 81.613	2年生のときのもの
	女 168	女 150.284	女 48.910	女 79.590	
高校25回 (昭48卒)	男 236	男 168.8	男 58.1	男 84.5	2年生のときのもの
	女 167	女 155.9	女 51.9	女 81.2	

※ 中学校14回の本岡功君は胸囲125cm。但し身長161cm。

就職希望者数推移一覧表

年次	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
男	53	41	45	52	20	29	25	15	17	11	16	15	8	7	4	4	1
女	50	70	85	87	77	89	75	73	52	48	66	44	35	19	20	11	8
計	103	131	130	139	97	118	100	88	69	59	82	59	44	26	24	15	9

あ　と　が　き

- 創立50周年記念誌「清流五十年」をお届けいたします。ようやく……まさにようやく、という思いがいたします。編集の最終段階にいたって、学校長・事務長の交替があり、またその直前編集の中心、馬場教頭を東播磨高校長としてお送りせねばならなかったからです。そうした状況の中では、清流会・育友会をはじめとする方々のあのご援助がなければ、この小誌も陽の目を見ることはなかったでしょう。
- 記事のいくつかについては、その不備、資料の不足は隠しようもありません。編集委員の努力の不足は重々におわびせねばなりません、戦前の同窓会「会誌」以降はほとんど資料が無いというのも事実です。お叱りと同時に、どんな小さな事実についてもその正確な記録をお送りいただけないものでしょうか。それをまとめる他日を期したいと思います。
- おわりになりましたが、おいそがしい中、原稿をお寄せいただいた県知事以下の各位、また各種資料をお貸しいただいた方々、中でも、貴重な資料を多数ご提供下さった橋清八氏に厚くお礼申し上げます。

編 集 委 員

広岡正義	馬場鉄夫(前教頭)
重松景正(前事務長)	高松一禧
坂田重夫	村上喜四男
平郡修	納庄隆
北出正次郎	中村理平
小原博	北野嘉一

清 流 五 十 年

昭和49年6月1日印刷

昭和49年6月7日発行

編集兼 加古川市加古川町粟津232の2

発行者 兵庫県立加古川東高等学校
電話加古川☎2726代

印刷者 加古川市加古川町寺家町130
有・八木凸版印刷

